

2020年度のモニタリング結果（中間）

【目次】

1. モニタリング調査の枠組み	P 2
2. 2020年度モニタリング計画	P 4
3. 太郎右衛門地区全体の調査	P 12
1) 水位	P 13
2) 水質	P 15
3) 植物相	P 18
4) 魚類	P 31
5) 底生動物	P 34
6) UAV撮影	P 37
7) 「特定の場所」の調査	P 39
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査	P 47
1) 植物相	P 49
2) 昆虫類	P 64
3) 両生類	P 69
4) 哺乳類	P 73
5) 鳥類	P 75
6) 写真撮影	P 80
5. その他の報告	P 90

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。ご了承下さい。

1. モニタリング調査の枠組み

- 生態系モニタリング専門委員会では、2つの枠組みでモニタリング調査を考えて行くことが合意されました。
 - 太郎右衛門地区全体の調査 → 地区全体の環境を良好な状態で管理していくために必要な情報の収集
 - 自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査) → 目標種の生態に応じた情報の収集
- 2019年度で工事が終了し、2020-2022年度は事業の効果評価のための3年間のモニタリング期間となることを踏まえて、見直しを図り、第50回協議会において合意されました。見直しの方向性は下記のとおりです。
 - 太郎右衛門地区全体の調査
生物調査は2012年度から現行の3年サイクルで各項目の調査を実施しており、2022年度まで予定通り実施します。
水位観測と水質調査は一部省力化します。
 - 自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査)
事業効果を評価するため、目標種の生態に応じた情報収集を継続しますが、これまでよりさらに目標種に焦点を当てた調査とします。

●太郎右衛門地区全体の調査

(1段階)網羅的な調査

- 地区全体でどこにどのような生物が生息・生育するかという情報は定期的に更新が必要なため、これを実施します。



(2段階)①貴重な種および良好な環境に対する調査

- 保全管理が必要となる貴重な種や良好な環境の実態を把握します。

例: 特定の場所等

(2段階)②外来種などの問題生物に対する調査

- 抑制管理が必要となる外来種などの問題生物の実態を把握します。

例: アライグマ等

●自然再生事業の実施計画に関わる調査

(1段階)目標種の出現の有無を確認する調査



(2段階)目標種の生息・生育実態を確認する調査

- 繁殖や採餌など、整備地の利用実態を把握します。



(3段階)目標種の定着状況を確認する調査

- 整備地での定着状況を把握します。

例: ハンノキ・ミドリシジミ、ニホンアカガエル等

1. モニタリング調査の枠組み

- 2022年度までに、国土交通省の環境整備事業としての整備効果を評価するための調査を実施する必要があります。
- 今後のモニタリングは、ロードマップに応じて段階ごとの目的にあわせて実施します。

荒川太郎右衛門地区自然再生事業 ロードマップ

年度		2003~2007 (H15~H19)	2008~2011 (H20~H23)	2012~2019 (H24~H31/R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023~ (R5~)
事業計画		自然再生全体体構想 (2004.3公表・2006.5改訂・2020.2一部改訂)						
		自然再生事業実施計画書 (荒川上流2011.1公表)			工事完了 (荒川上流)	管理・活用計画の検討		管理・活用計画に基づく運営
自然再生整備	上池	試験掘削 呑口整備	本施工 (~2015) 開放水面整備、湿地整備			植生管理	事業完了	出水による流入・攪乱や ハンノキ再生、 維持管理などにより 目標種の追加出現や 個体数増加を想定
	中池		本施工 (2017) 通路整備			広場の 在来種草地形成		
	下池	試験掘削 移植	本施工 (~2019) ハンノキ生育地整備			ハンノキ再生		
モニタリング	整備地	生物相調査 (目標種の確認に留意)			モニタリング 計画検討	目標種調査		目標種調査 (協議会や外部協力者、市民による調査)
	地区全体	生物相調査	生物相調査 (3年サイクル)			目標種調査		河川水辺の国勢調査として実施
体制・行動計画		マーケットリサーチ			体制・行動計画の確立		自然再生地の 管理・活用	
普及啓発		助成金を活用したイベント等を開催				普及啓発活動 (自立した体制で実施)		

2. 2020年度モニタリング計画

: 今回報告部分(モニタリング専門委員会報告済み)

1) モニタリング調査のスケジュール

区分	項目	対象となる目標種	調査地点	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考		
全体の調査 太郎右衛門地区	水位	—	上池・中池・下池の旧流路各1地点													・連続観測		
	水質	—	上池・中池・下池の旧流路各1地点	●		●		●		●		●		●		・6回調査		
	植物相・ 魚類・ 底生動物	—	全域		●			●								・春・夏に各1回		
	UAV撮影	—	各整備地を含む範囲	●						●						・春・秋に各1回		
	特定の場所 (写真撮影)	—	特定の場所	●				●		●						・春・夏・秋に各1回		
自然再生事業の実施計画に関わる調査	特定の場所 (写真撮影)	—	各整備地	●				●		●						・春・夏・秋に各1回		
	植物相	イチョウウキゴケ、タコノアシ、 ナガボノワレモコウ、ノウルシ、 ヒシ、ホザキノフサモ、 エキサイゼリ、サクラソウ、 ミゾコウジュ、フジバカマ、ミクリ	非表示	●	●			●		●						・早春・春・夏・秋に各1回		
	昆虫類	ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、 クマコオロギ、エサキアメンボ、 ハネナシアメンボ、ハイケボタル					●		●								・夏・秋に各1回	
		ミドリシジミ、オナガミズアオ				●●											・6月に2回	
	両生類	ニホンアカガエル														●●	・3月に2回	
		シュレーゲルアオガエル			●	●											・5月と6月に各1回	
	哺乳類	ホンシュウジネズミ								●	●							・9月と10月に各1回 ・目撃例のある中池を重点
		ホンドタヌキ、ホンドキツネ					●								●		・夏・冬に1回 ・糞分析	
	鳥類	カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、 ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ					●								●		・6月と1月に各1回	
		オオタカ、ツミ、サシバ、 チョウゲンボウ			●	●	●	●									・4~7月に各月1回	
コミミズク、タゲリ														●		・冬季に1回		

2020年3月卵塊調査結果を報告しました。

※赤字は2020年度からの実施項目

参考：重要種と目標種

<重要種>

- 国、埼玉県レッドリストに記載されている種

(下記のいずれかに該当)

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

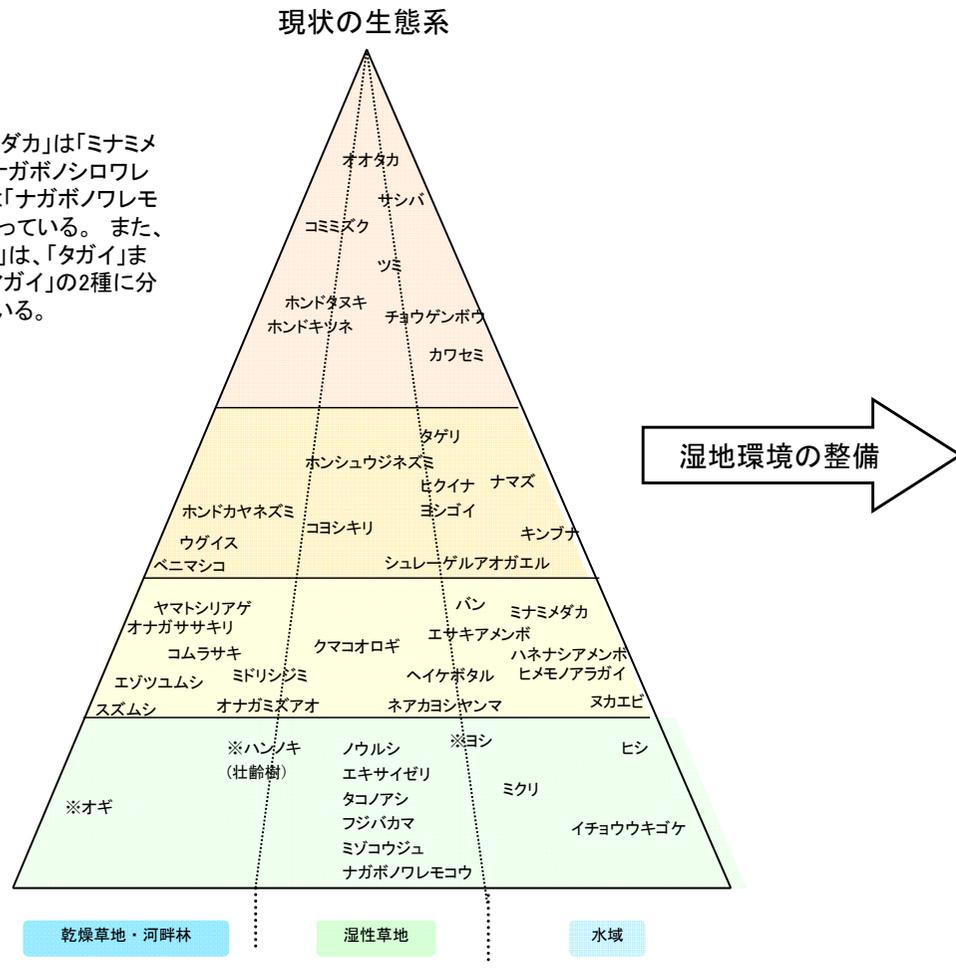
※文化財保護法、種の保存法、埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例で指定された種も本来重要種に位置づけられるが、それらの種は本地区では確認されていない。

<目標種>

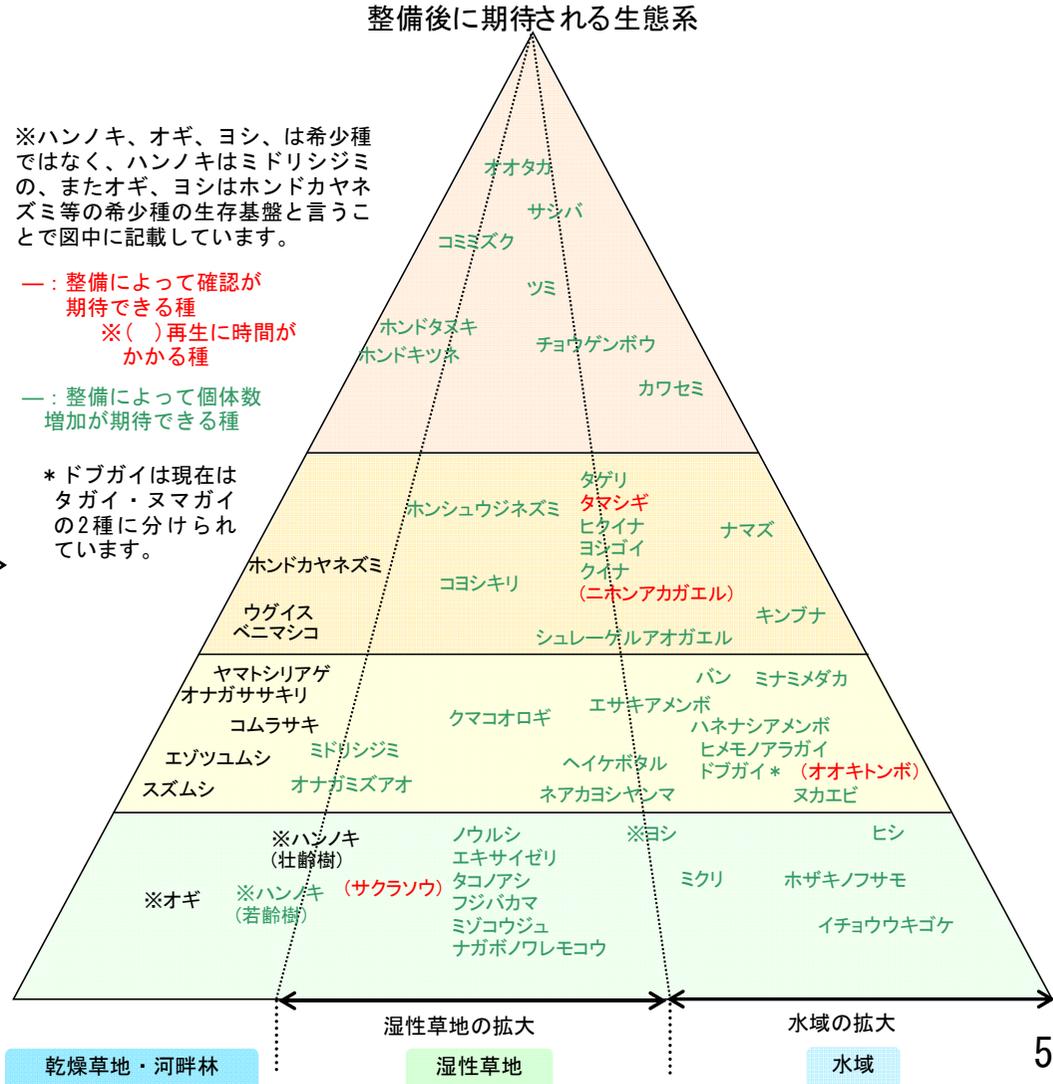
- 過去に本地区で確認されているが近年確認記録がない重要種のうち、整備によって確認が期待できる種 ⇒右下図の赤字の種
- 本地区で近年確認記録がある重要種のうち、整備によって個体数増加が期待できる種 ⇒右下図の緑字の種

※図内の種は確認された重要種のうち代表的な種。

* 現在、「メダカ」は「ミナミメダカ」、「ナガボノシロワレモコウ」は「ナガボノワレモコウ」となっている。また、「ドブガイ」は、「タガイ」または「ヌマガイ」の2種に分けられている。



湿地環境の整備



※ハンノキ、オギ、ヨシ、は希少種ではなく、ハンノキはミドリシジミの、またオギ、ヨシはホンドカヤネズミ等の希少種の生存基盤ということ図中に記載しています。

—：整備によって確認が期待できる種
※()再生に時間がかかる種

—：整備によって個体数増加が期待できる種

* ドブガイは現在はタガイ・ヌマガイの2種に分けられています。

湿性草地の拡大 水域の拡大

参考：太郎右衛門地区全体の生物調査の年次スケジュール

項目	年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022		
全域	植生図	●	—	—	●	—	—	●	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●		
	植物相	●	●	●	●	●※	●※	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—		
	鳥類	●	●	●	●	●※	●※	●※	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—		
	両生類 ・爬虫類 ・ほ乳類	●	●	●	●	●※	●※	●※	—	—	—	— (水国)	—	—	—	試行	●	—	—	●	—	—	●	
	陸上昆虫類	●	●	●	●	●※	●※	●※	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—		
	魚類	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	
	底生動物	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●	—	—	
特定の場所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	写真	写真 植生図 群落組成	写真 植生図 植物 群落組成	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真		
備考	調査関係					※中池・下池で実施						植物は 水域の みで実 施	2012.9 に「 地区全 体の生 物調査 を3年に 1回の 頻度で 実施」 を決定	「良好な 環境に 対する 調査」と して特 定の場 所調査 を開始								UAV撮 影調査 の実施		
	その他		2004.3 全体構 想発表			2006.5 全体構 想改定 版発表					2011.1 実施計 画書発 表						2016.4 モニタ リング とりま とめ 資料発 表		2018.4 モニタ リング とりま とめ 資料改 定版発 表	2020.2 全体構 想一部 改訂版 発表				

2020年度は植物調査、魚類・底生動物調査を実施します。
 前は2017年度に実施しました。

2. 2020年度モニタリング計画

 : 今回報告部分(モニタリング専門委員会報告済み)

1) モニタリング調査日及び予定実施日

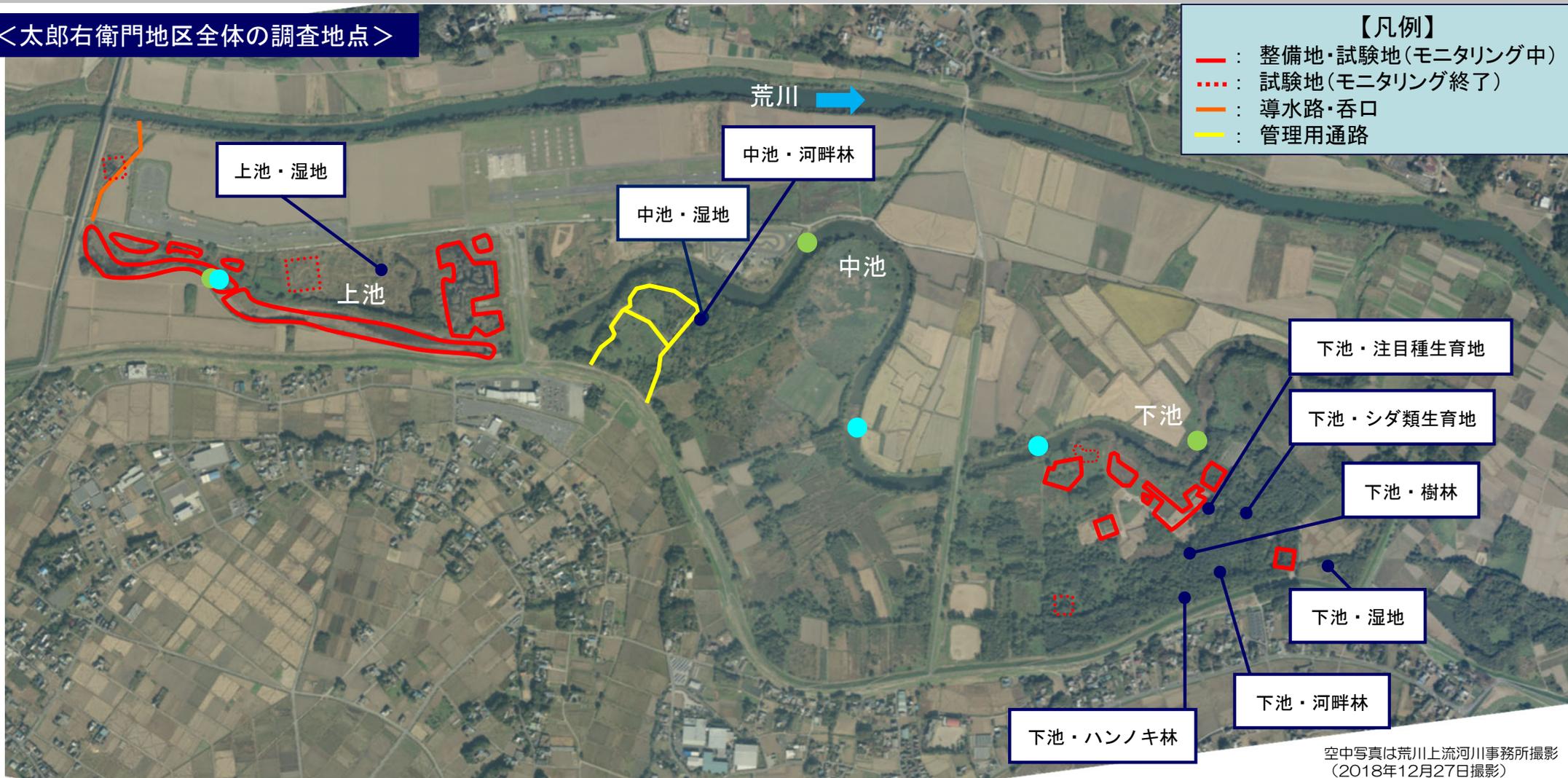
区分	項目	対象となる目標種	調査地点	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
太郎右衛門地区 全体の調査	水位	—	上池・中池・下池旧流路 各1地点													
	水質	—	上池・中池・下池旧流路 各1地点	9日		4日		6日		8日		3日		予定		
	植物相	—	全域		25~ 28日			4~7日								
	魚類・ 底生動物	—	全域			10~ 12日		18~ 20日								
	UAV撮影 (ドローン撮影)	—	各整備地を含む範囲			2~3日					27~ 28日					
	特定の場所 (写真撮影)	—	特定の場所	24日				5日			13日					
自然再生事業の実施計画に関わる調査	特定の場所 (写真撮影)	—	各整備地	24日				5日		13・ 18日						
	植物相	イチョウウキゴケ、タコノアシ、 ナガボノワレモコウ、ノウルシ、 ヒシ、ホザキノフサモ、 エキサイゼリ、サクラソウ、 ミゾコウジュ、フジバカマ、ミクリ		21~ 22日	25~ 28日			4~7日		13~ 14日						
	昆虫類	ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、 クマコオロギ、エサキアメンボ、 ハネナシアメンボ、ヘイケボタル					13~ 14日			28~ 29日						
		ミドリシジミ、オナガミズアオ				8~9日 22~ 23日										
	両生類	ニホンアカガエル	非表示													2回 予定
		シュレーゲルアオガエル			28日	8日										
	哺乳類	ホンシュウジネズミ								28~ 29日	26~ 27日					
		ホンドタヌキ、ホンドキツネ						3日						20日		
	鳥類	カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、 ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ				15~ 16日								13~ 14日		
		オオタカ、ツミ、サシバ、 チョウゲンボウ		24日	29日	30日	28日									
コミミズク、タゲリ													13~ 14日			

※赤字は2020年度からの実施項目

2. 2020年度モニタリング計画

2) モニタリング調査の地点

<太郎右衛門地区全体の調査地点>



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2018年12月27日撮影)

植物相調査は**全域を踏査**
 魚類・底生動物調査においては、従前は旧流路を対象としていましたが、**自然再生地内の水たまりや水路なども対象とします。**
 UAV撮影は**全域を撮影**

- : 水位・地下水位観測地点
- : 水質調査地点

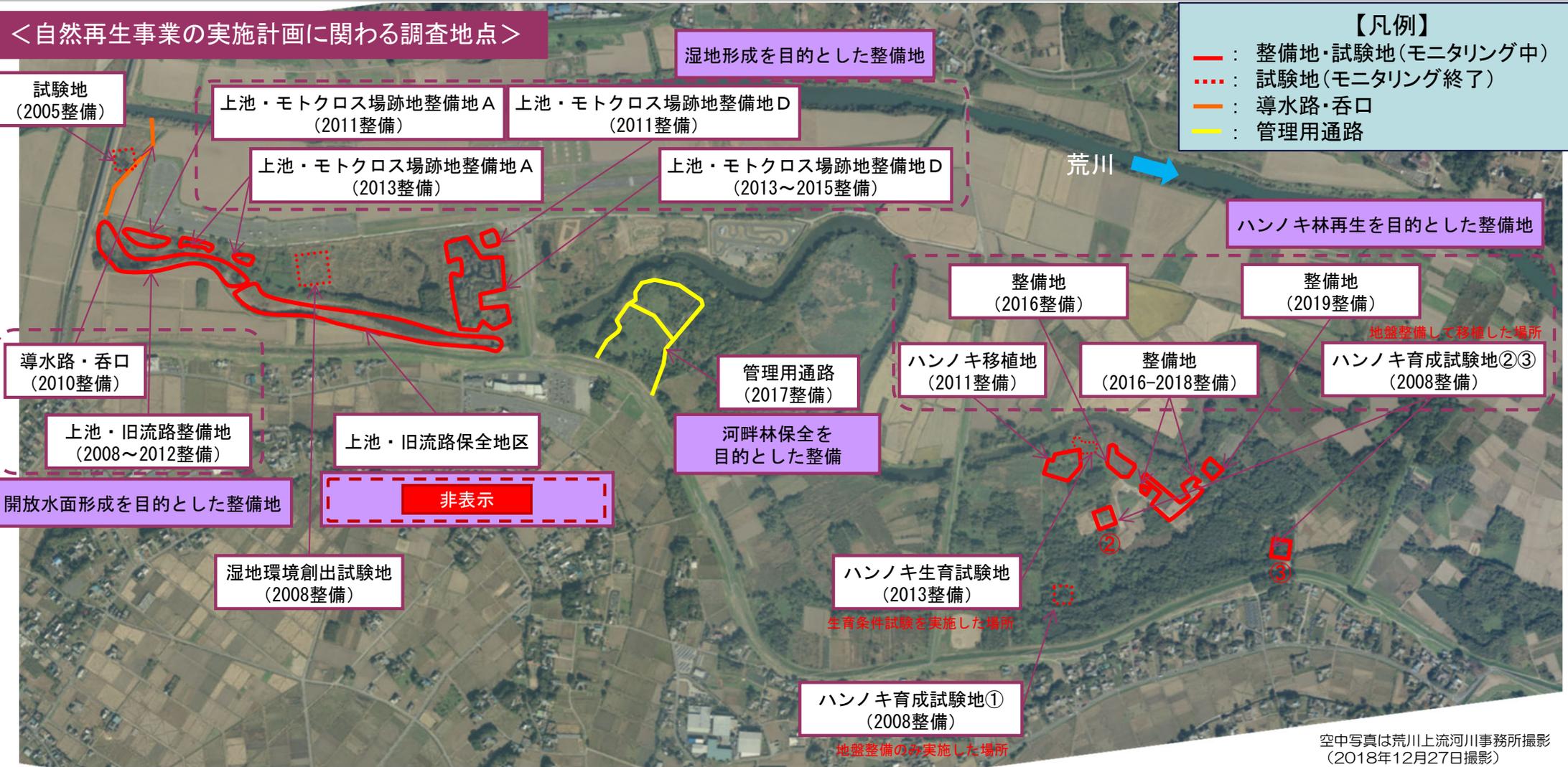
2. 2020年度モニタリング計画

2) モニタリング調査の地点

<自然再生事業の実施計画に関わる調査地点>

【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- ⋯ : 試験地(モニタリング終了)
- : 導水路・呑口
- : 管理用通路



空中写真は荒川上流河川事務所撮影 (2018年12月27日撮影)

2. 2020年度モニタリング計画

3) モニタリング調査の方法

1. 植物相調査	方法
植物相	調査範囲内を踏査し、出現した種を記録する。
2. 魚類調査	方法
魚類	調査範囲内(水溜まり、水路等含む)において、タモ網・投網・セルビン等を使用し、生息する種を採捕し確認した種を記録する。
3. 底生動物調査	方法
底生動物	調査範囲内(水溜まり、水路等含む)において、タモ網・ジョレン等を使用し、生息する種を採捕し確認した種を記録する。
4. 昆虫類調査	方法
ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ヘイケボタル	調査範囲内を踏査し、出現した種を記録する。
ミドリシジミ、オナガミズアオ	移植したハンノキを対象に、ミドリシジミ、オナガミズアオの飛来状況を目視、ライトトラップで確認する。
5. 両生類・哺乳類調査	方法
ホンシュウジネズミ	調査範囲内を踏査し、墜落缶を設置し捕獲・記録する。
ホンダヌキ、ホンドキツネ	調査範囲内を踏襲し、目撃法、フィールドサイン法により確認・記録する。また、食性を把握するために糞を採集し、内容物の確認を行う。
6. 両生類・哺乳類調査	方法
ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル	調査範囲内を踏査し、目撃法(鳴き声による確認を含む)、捕獲法により行う。卵塊、幼生、幼体、成体及び死体を確認・記録する。
7. 鳥類調査	方法
カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ	調査範囲内を踏査し、任意観察法により鳥類の姿または鳴き声により出現する種を確認する。
オオタカ、ツミ、サシバ、チョウゲンボウ	調査範囲を見通せる定点センサス法において、鳥類の姿または鳴き声により出現する種を確認する。
コミズク、タゲリ	夕暮れ時に調査範囲内を踏査し、調査範囲内を踏査し、任意観察法により鳥類の姿または鳴き声により出現する種を確認する。



2. 2020年度モニタリング計画

3) モニタリング調査の方法

<重要種の選定基準>

名称	カテゴリ(略称)	備考
文化財保護法 (昭和25年法律第214号)	・特別天然記念物(特天) ・天然記念物(天)	該当種無し
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法) (平成4年法律第75号)	・国内希少野生動植物(国内) ・国際希少野生動植物(国際)	該当種無し
埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例 (埼玉県, 2012年)	・県内希少野生動植物(県希少)	該当種無し
環境省レッドリスト (環境省報道発表資料, 2020年)	・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	
埼玉県レッドデータブック (埼玉県, 動物2018年、植物2011年)	・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CE) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧種(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP)	
埼玉県レッドデータブック(旧版) (埼玉県, 動物2008年、植物2005年)	・絶滅(旧EX) ・野生絶滅(旧EW) ・絶滅危惧 I 類(旧CR+EN) ・絶滅危惧 I A類(旧CR) ・絶滅危惧 I B類(旧EN) ・絶滅危惧 II 類(旧VU) ・準絶滅危惧(旧NT1、NT2) ・情報不足(旧DD) ・絶滅のおそれがある地域個体群(旧LP) ・地帯別危惧(旧RT)	全体構想策定時(2003年)に 根拠としていたため、 引き続き採用

<外来種の選定基準>

名称	カテゴリ(略称)	備考
特定外来生物による生態系等に 係る被害の防止に関する法律 (外来生物法) (平成16年)	・特定外来生物(特定)	
我が国の生態系等に被害を及ぼす おそれのある外来種リスト (環境省, 2015年)	—	区分が多いため表示 箇所と非表示箇所があ る
外来種ハンドブック (日本生態学会, 2002年)	—	
その他	—	家禽など

3. 太郎右衛門地区全体の調査

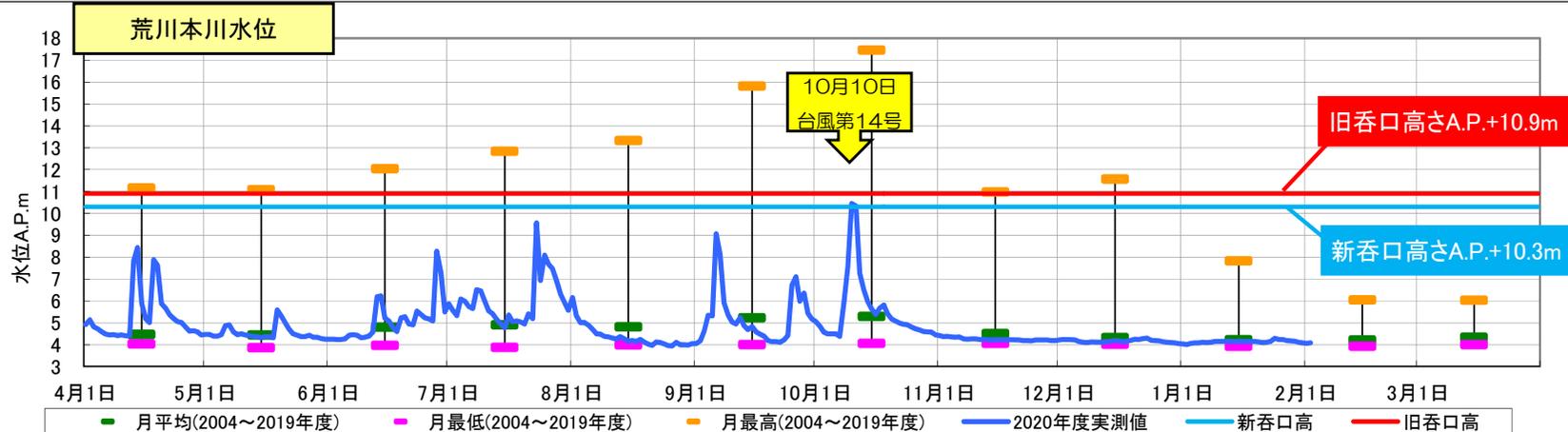
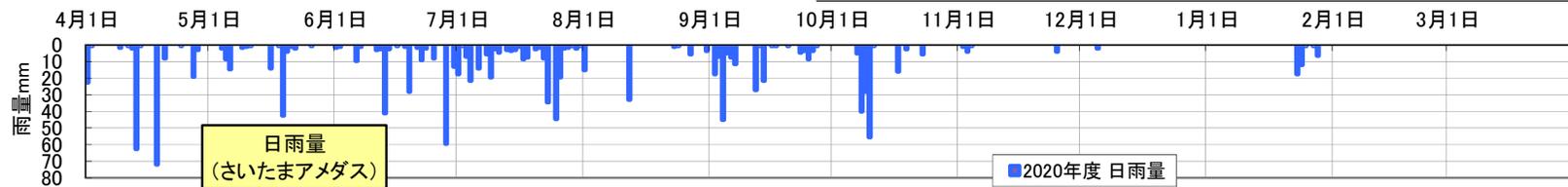
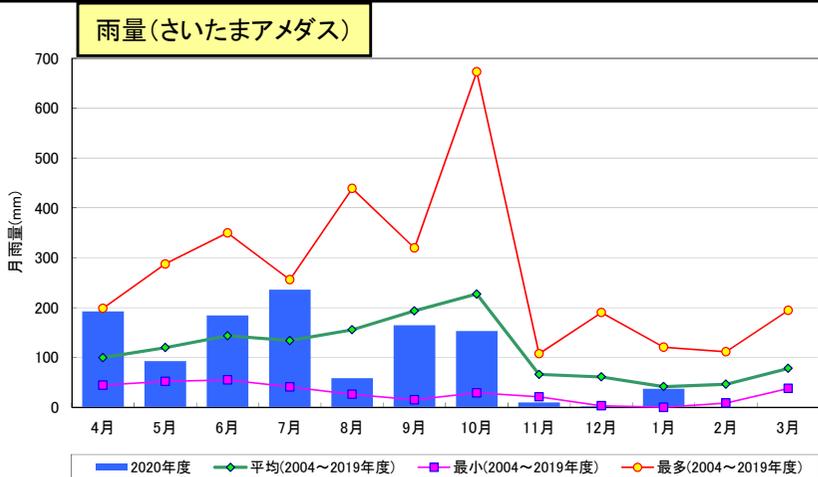
場所	項目	結果概要	記載ページ	
旧流路・本川	水位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降雨量は、4月、6月、7月は平均より多め、5月および8月以降は平均値より少なめでした。 ・ 荒川本川水位は、4月は降雨により一時的に上昇しましたが、すぐに低下し、6月、7月は前線の降雨により平均値より高めで推移し、8月は平均値より低めで推移し、9月、10月は前線及び台風第14号による降雨より水位は上昇しました。台風第14号では、上池に河川水の流入がありました。11月以降は水位は下がり最低値付近を推移しています。 ・ 旧流路水位は、上池の水面は4月以降も維持され、10月までは平均値から最高値の間を、11月以降は平均値から最低値の間を推移していました。中池と下池は概ね平均値付近を推移していました。 	13-14	
旧流路	水質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各池で富栄養の傾向にありますが、目標種の生息に大きな問題は無いと考えられました。 	15-17	
全域	植物相	<div style="border: 2px dashed red; width: 100%; height: 100%;"></div> <div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">非表示</div>	18-30	
	魚類		31-33	
	底生動物		34-36	
	UAV撮影		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から、「旧流路の保全」として、上池は「創出された開放水面」、中池、下池は「保全された開放水面」を確認するためドローン撮影を実施しました。 ・ 春季は、上池では、旧流路整備地およびモトクロス場跡地整備地Dにおいて水面が形成されているのが確認されました。 ・ 秋季は、上池では、旧流路整備地およびモトクロス場跡地整備地Dにおいて、10月の台風第14号による降雨による河川水の流入により水面が維持されているのが確認されました。 ・ 中池、下池は水面が維持されているのが確認されました。また、中池の湿地(特定の場所)および下池整備地は今年の台風による冠水による水面の維持が引き続き確認されました。 	37-38
	特定の場所		<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの地点でその特徴が維持され、大きな変化はありませんでした。 ・ 下池のかつてアゼオトギリが生育していた「湿地」は乾燥化が引き続き進行しています。 ・ 下池のフジカンゾウが生育する「注目種生育地」は、タケの侵入は見られず、フジカンゾウは継続して確認されました。 	39-46

※赤字の種名は今回初めて確認された目標種・重要種・特定外来種です

3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位 ①荒川本川水位と降雨量

- 降雨量は、4月、6月、7月は平均より多め、5月、8月以降は平均値より少なめでした。
- 荒川本川水位は、4月は降雨により一時的に上昇しましたが、すぐに低下し、6月、7月は前線の降雨により平均値より高めで推移し、8月は平均値より低めで推移し、9月、10月は前線及び台風第14号による降雨より水位は上昇しました。台風第14号では、上池に河川水の流入がありました。11月以降は水位は下がり最低値付近を推移していました。



整備後(2009末以降)の流入実績		
年度	日付	最高水位 (A.P.m)
2010	11.1	10.99
	5.30	11.09
2011	9.4	12.32
	9.22	12.54
2012	5.1	欠測
	6.20	12.05
2013	9.17	11.06
	10.16	12.71
2014	6.7	11.69
	10.6	12.04
2015	7.17	11.34
	9.10	14.26
2016	8.23	13.22
	8.30	13.34
2017	9.21	11.83
	10.23	14.80
2018	10.1	12.51
	9.9	11.10
2019	10.13	17.47※
	10.26	13.43
2020	10.10	10.45

計画は1.5回/年
実績は1.9回/年(21回/11年)
※2009年末以降最高水位

【平均・最高・最低について】
・2004~2019年度(H16~31年度)のデータを用いています。
・1月ごとに、各年の同日のデータから算出しています。
・各日のデータは、荒川本川は「時間最高水位」、他は「日平均水位」データから算出しています。

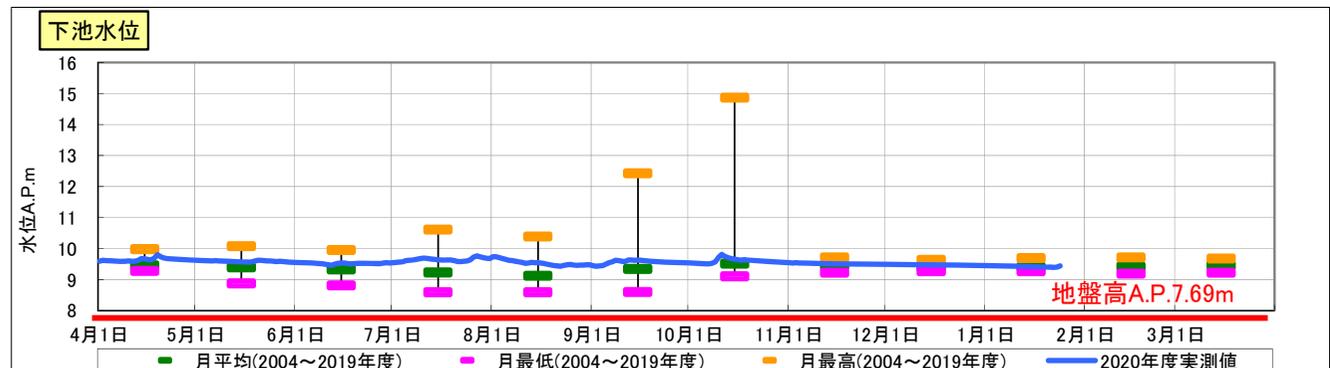
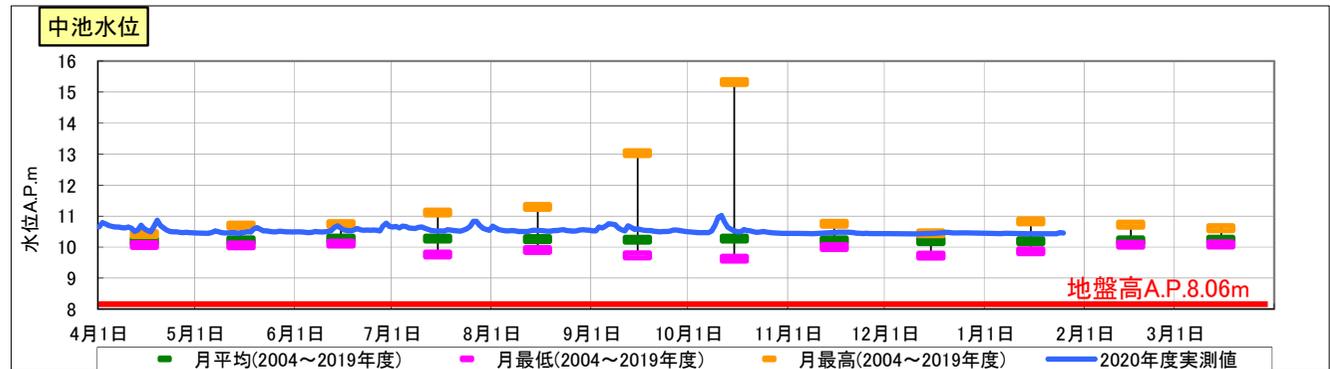
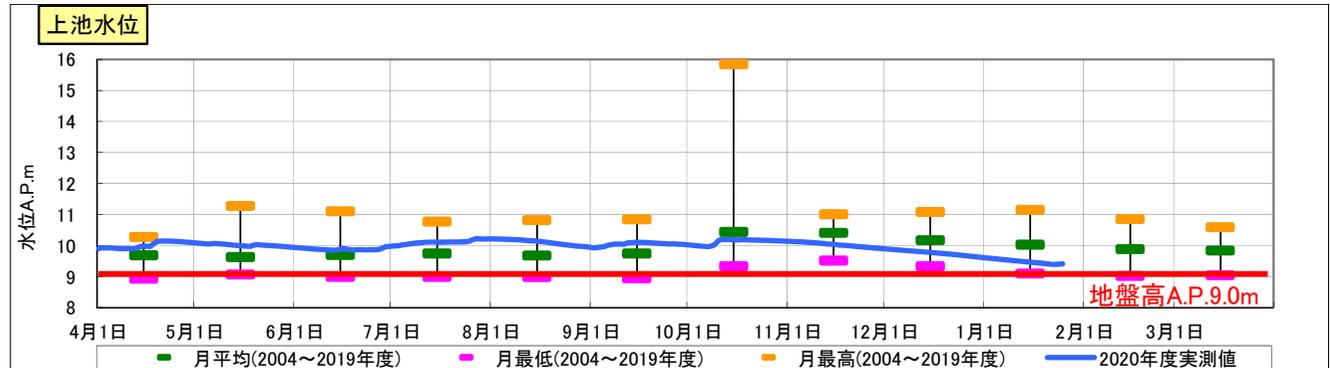
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位 ②旧流路水位 上池、中池、下池

- 上池は、水面は4月以降も維持され、10月までは平均値から最高値の間を、11月以降は平均値から最低値の間を推移していました。
- 中池と下池は、概ね平均値付近を推移していました。



- 【凡例】**
- : 水位観測箇所
 - : 整備地・試験地(モニタリング中)
 - ⋯ : 試験地(モニタリング終了)
 - : 管理用通路



3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質 ①COD、DO、pH

- CODは、中池の6月、10月は8mg/L以上であり、富栄養の状態にあります。
- DOは、中池で6月に4.1mg/Lとやや低い値を示しましたが、各池とも概ね5mg/L以上を示しました。
- pHは、各池とも概ね7.0から8.5を示しました。
- フナ類に対してもCODは高いレベルですが、現状では生息が確認されており、大きな問題は無いと考えられます。

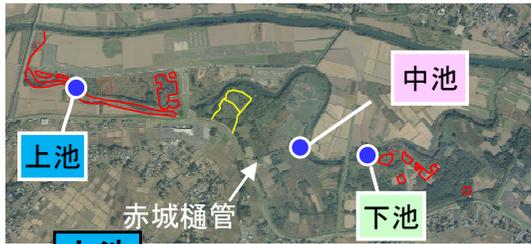
○生活環境の保全に関する環境基準(湖沼)

類型	COD	DO	pH	生物に関する備考
AA	1mg/L以下	7.5mg/L以上	6.5以上8.5以下	ヒメマス等貧栄養湖型水域の水産生物が漁獲できる程度(水産1級相当)
A	3mg/L以下	7.5mg/L以上	6.5以上8.5以下	サケ科魚類、アユ等貧栄養湖型水域の水産生物が漁獲できる程度(水産2級相当)
B	5mg/L以下	5mg/L以上	6.5以上8.5以下	コイ、フナ等富栄養湖型水域の水産生物が漁獲できる程度(水産3級相当)
C	8mg/L以下	2mg/L以上	6.0以上8.5以下	-

※上表の水質項目は、下記計測項目を抜粋した。
出典: 環境省HP (<http://www.env.go.jp/kijun/wt2-1-2.html>)

※過年度の計測結果は荒川上流河川事務所HPで公開しています。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00615.html>

調査地点



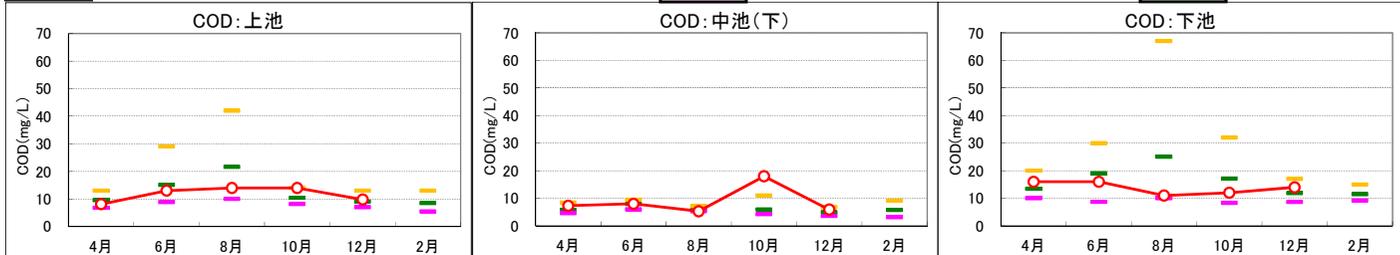
- ①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
- ②分析方法は、CODは過マンガン酸カリウム酸性法、DOはウインクラーアジ化ナトリウム変法、pHはガラス電極法です。

上池

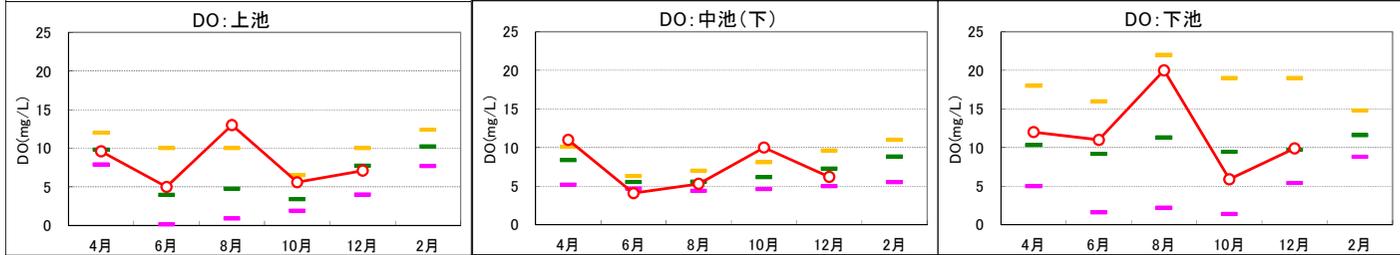
中池

下池

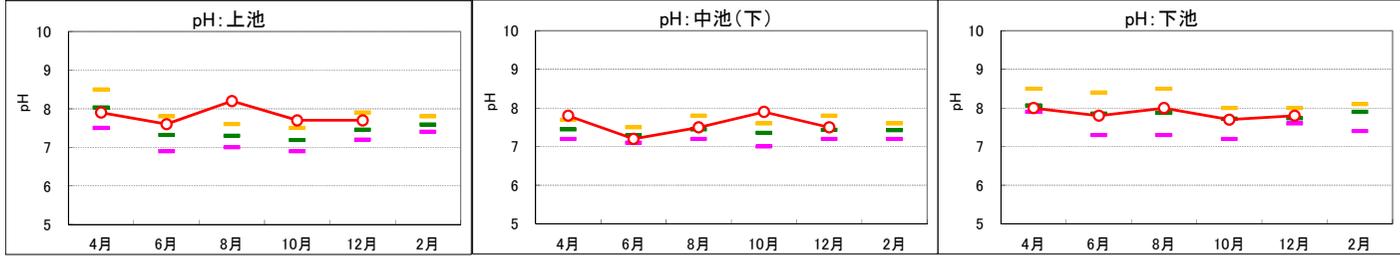
CODの経時変化



DOの経時変化



pHの経時変化



※上池の2016.8月、2017.8・10月は水が無く調査はありません。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質 ②T-N、T-P

- 全地点で、おおむねT-Nは1mg/L以上、T-Pは0.1mg/L以上であり、既往の変動の範囲内に収まり、富栄養の状態にあります。
- フナ類に対しても高いレベルですが、現状では生息が確認されており、大きな問題は無いと考えられます。

○生活環境の保全に関する環境基準(湖沼)

類型	全窒素(T-N)	全磷(T-P)	生物に関する備考
1	0.1mg/L以下	0.005mg/L以下	-
2	0.2mg/L以下	0.01mg/L以下	サケ科魚類、アユ等の水産生物が漁獲できる程度(水産1種相当)
3	0.4mg/L以下	0.03mg/L以下	-
4	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下	ワカサギ等の水産生物が漁獲できる程度(水産2種相当)
5	1mg/L以下	0.1mg/L以下	コイ、フナ等の水産生物が漁獲できる程度(水産3種相当)

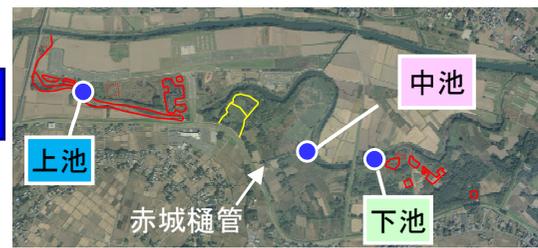
出典: 環境省HP
(<http://www.env.go.jp/kijun/wt2-1-2.html>)

調査実施状況と報告状況
水質 偶数月

- ①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
- ②分析方法は、T-Nはペルオキシニ硫酸カリウム分解-紫外線吸光度法、T-Pはペルオキシニ硫酸カリウム分解-吸光度法です。

※過年度の計測結果は荒川上流河川事務所HPで公開しています。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00615.html>

調査地点



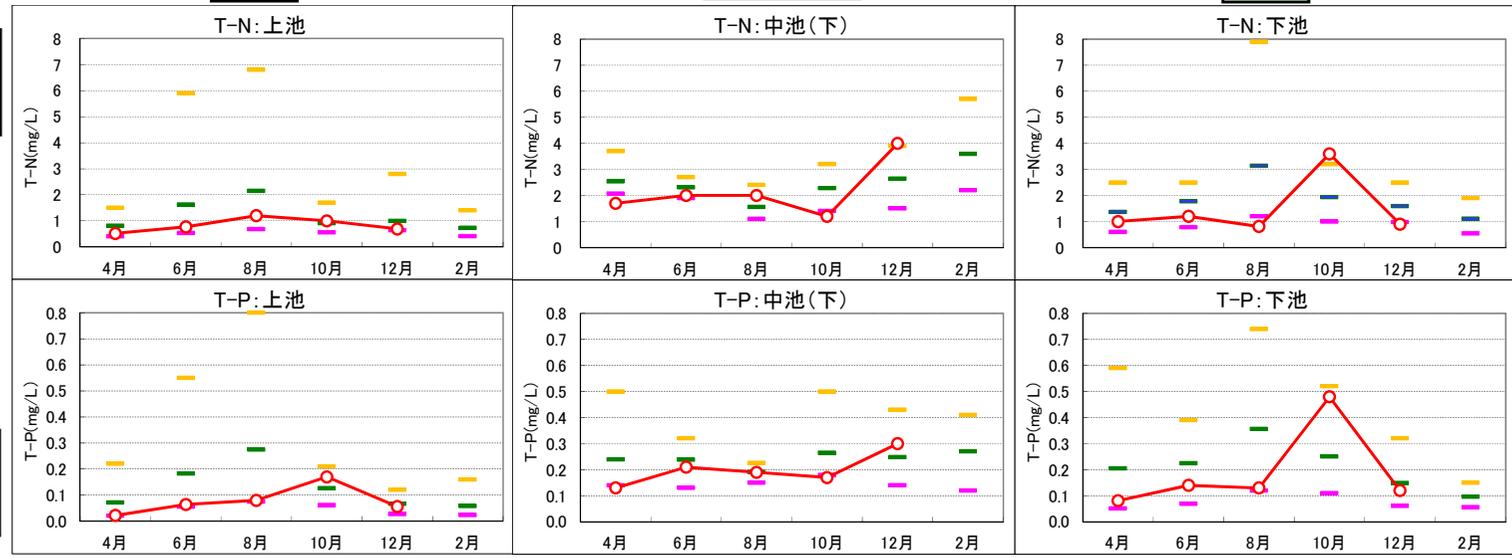
上池

中池(下)

下池

T-Nの経時変化

T-Pの経時変化



■ 月平均(2010~2018年度) ■ 月最低(2010~2018年度) ■ 月最高(2010~2018年度) ● 2019観測値

※上池の2016.8月、2017.8・10月は水が無く調査はありません。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

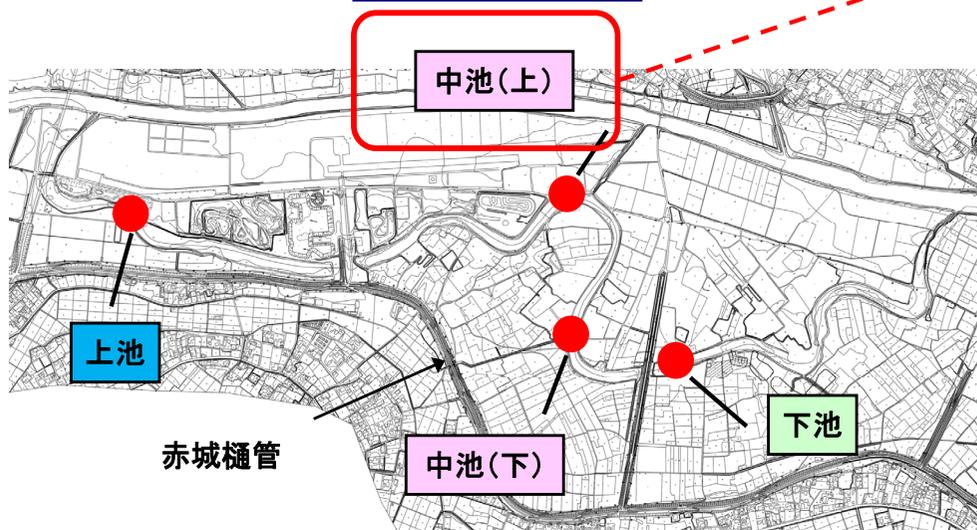
2) 水質 ③DO・pHの日内変動調査（2014-2015年度実施）

参考

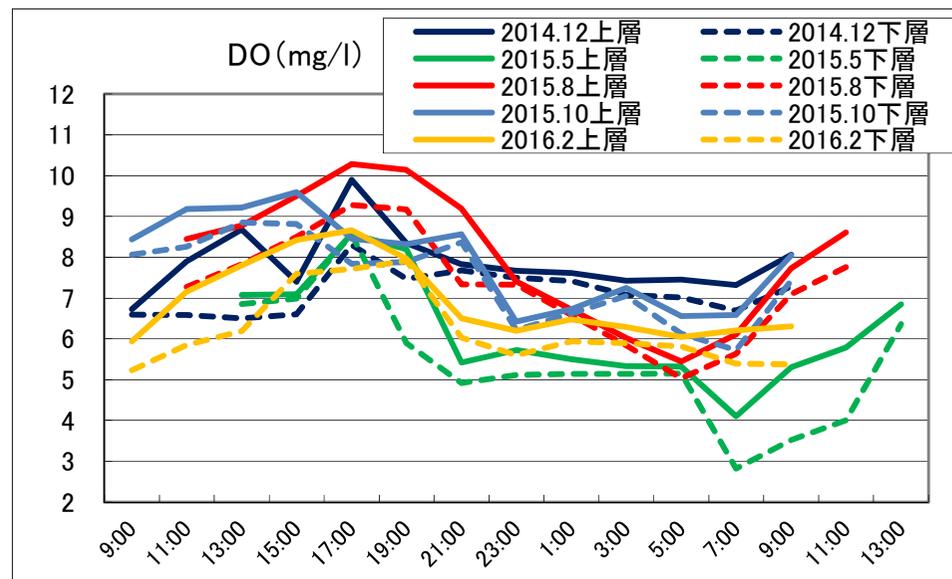
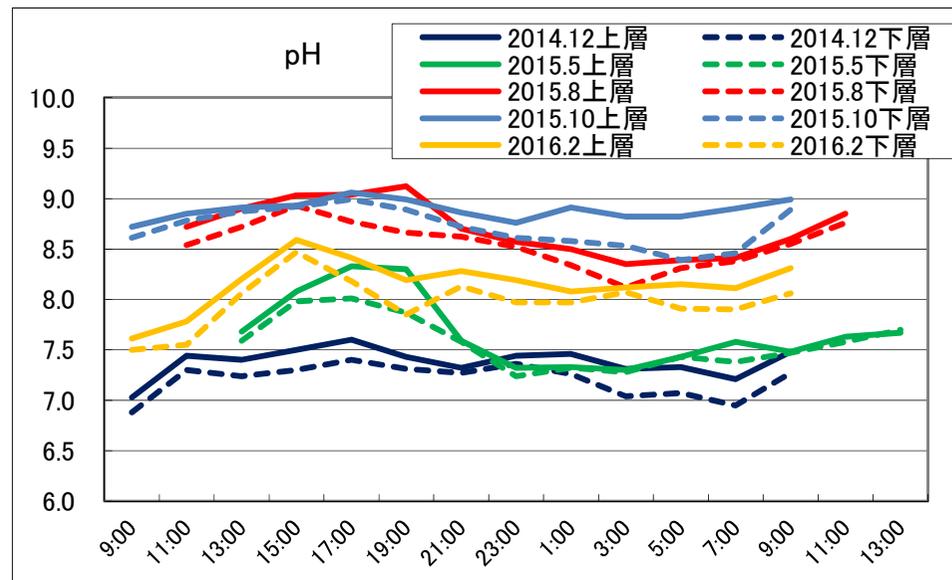
●参考

- 計5回、実施しました。
- 各回、25時間、2時間毎に計13回の機器測定を実施しました。
- DOの季節変動が大きく水深が深い「中池(上)」で表層(水面から10cm)と底層(河床から10cm)を計測しました。
- ⇒ DOの表層は、日中は定期調査と同等の7-9mg/Lでしたが、夕方に10mg/L付近まで上昇し、朝方に低下しました。底層は表層より常に低い値でした。
- ⇒ pH、DOともに同じ傾向の変動を示し、大きな日内変動があることが確認されました。

調査地点



中池(上)



3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相

非表示

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

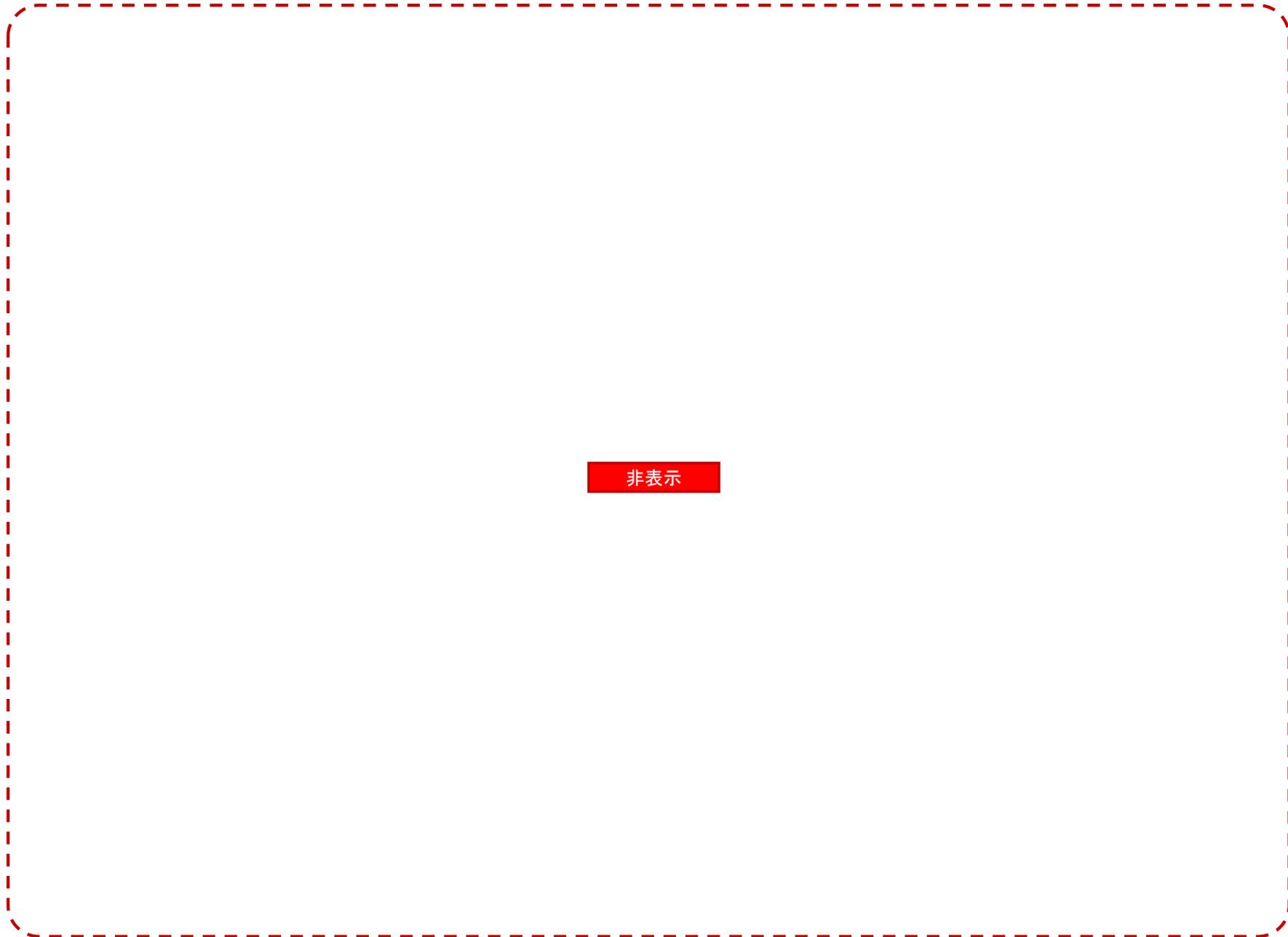
3) 植物相 1/5

植物相

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 2/5



3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 3/5



3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 4/5



3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 5/5

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 上池

春季

2020.5の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 上池

春季

2020.5の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 上池

夏季

2020.8の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 中池

春季

2020.5の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 中池

夏季

2020.8の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 下池

春季

2020.5の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相 下池

夏季

2020.8の結果

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

4) 魚類

非表示

確認種

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

4) 魚類

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

4) 魚類

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 底生動物

非表示

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 底生動物

確認種

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

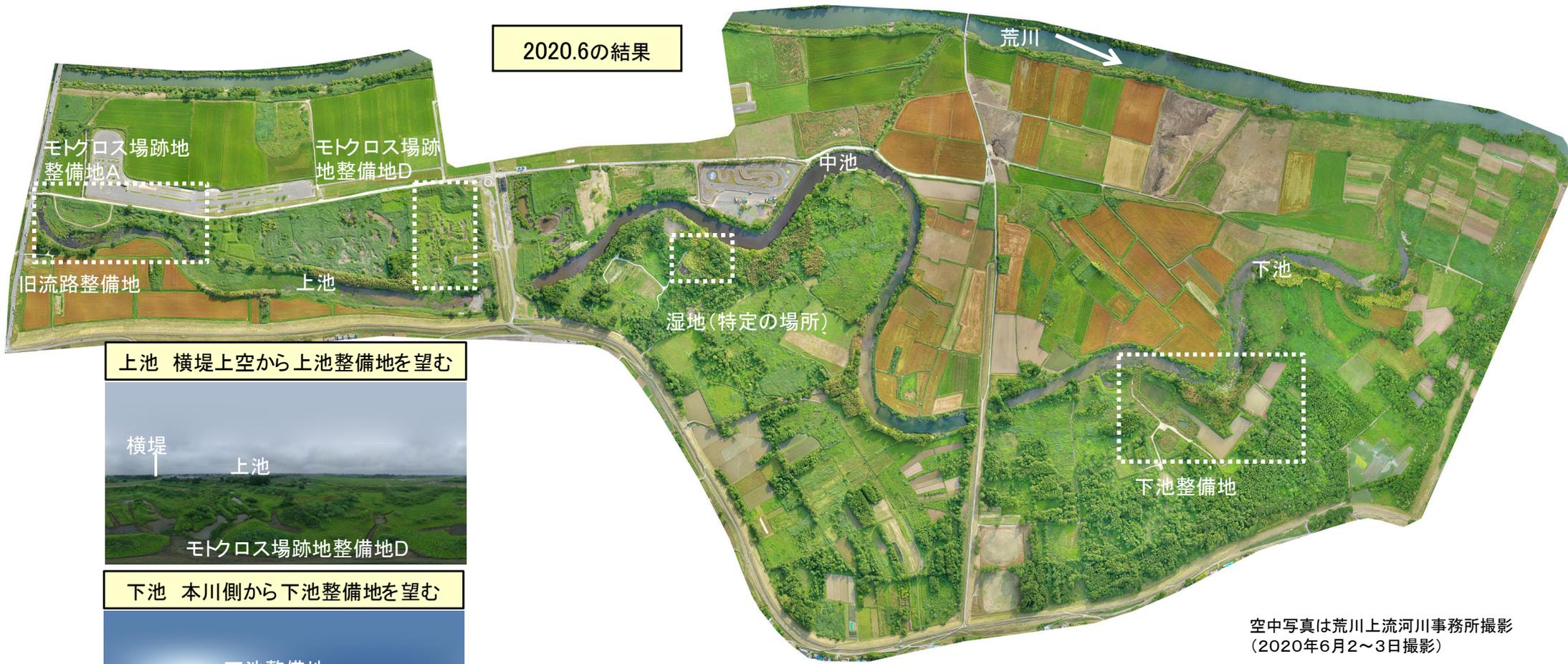
5) 底生動物

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

6) UAV撮影

- 春季は、上池では、旧流路整備地およびモトクロス場跡地整備地Dにおいて水面が形成されているのが確認されました。
- 中池、下池は水面が維持されているのが確認されました。また、中池の湿地(特定の場所)および下池整備地は今年の台風による冠水による水面の維持が確認されました。

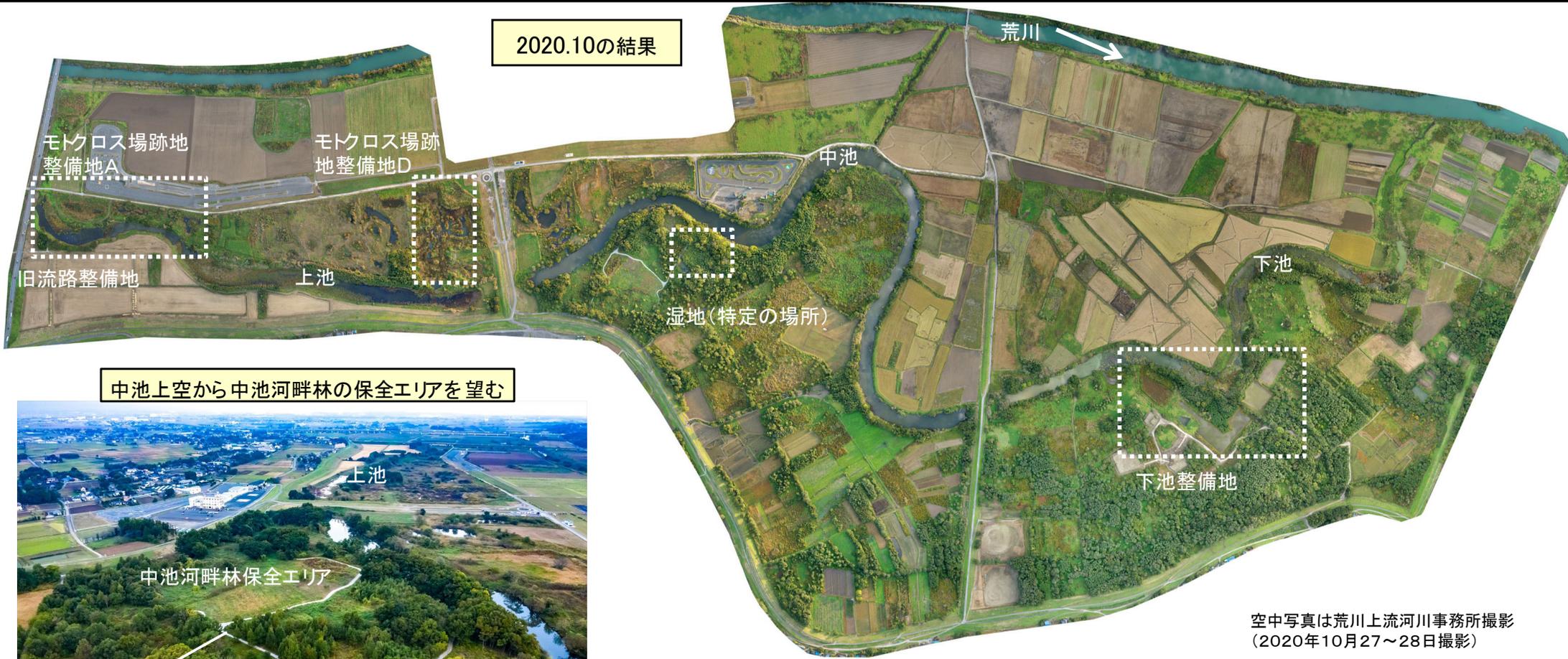


空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2020年6月2~3日撮影)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

6) UAV撮影

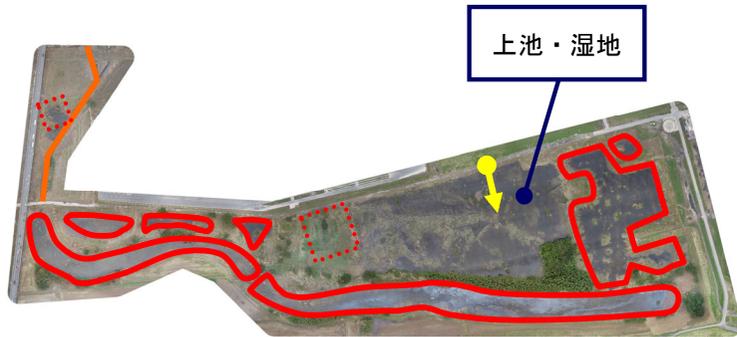
- 秋季は、上池では、旧流路整備地およびモトクロス場跡地整備地Dにおいて、10月の台風第14号による降雨による河川水の流入により水面が維持されているのが確認されました。
- 中池、下池は水面が維持されているのが確認されました。また、中池の湿地(特定の場所)および下池整備地は今年の台風による冠水による水面の維持が引き続き確認されました。
- 2019年10月に高水敷が冠水する出水がありました。出水前と植生の大きな変化は確認されませんでした。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：上池・湿地 写真撮影

●くぼ地の周囲にヤナギ類、その周囲にオギが分布し、湿地の状態は維持されています。
 昨年の台風第19号の冠水によるくぼ地の水面が維持されています。



上池・湿地



【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- ... : 試験地(モニタリング終了)
- : 導水路・呑口
- : 管理用通路

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
 (2019年10月23~24日撮影)

※「特定の場所」は2013年7月から撮影開始

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

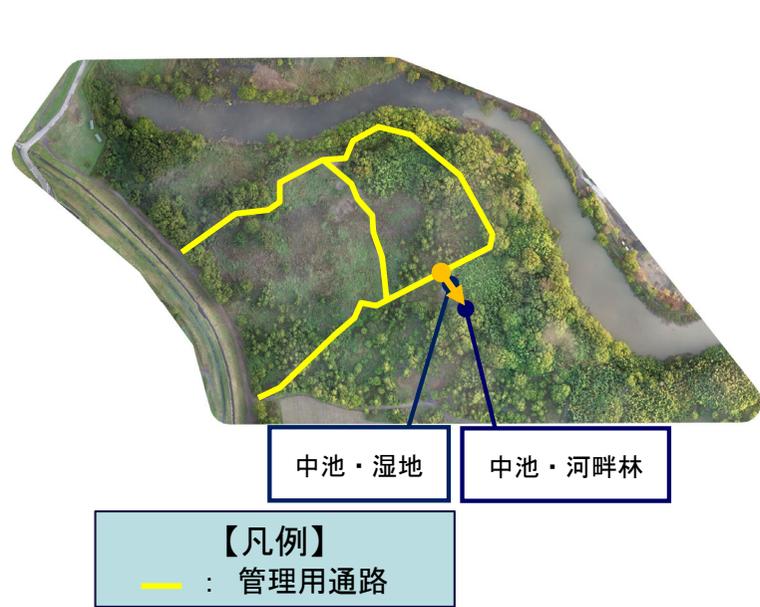
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：中池・湿地および河畔林 写真撮影

●くぼ地は湿潤な状態を維持し、河畔林の状態も維持されています。
昨年の台風第19号の冠水によるくぼ地の水面が維持されています。



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23～24日撮影)

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

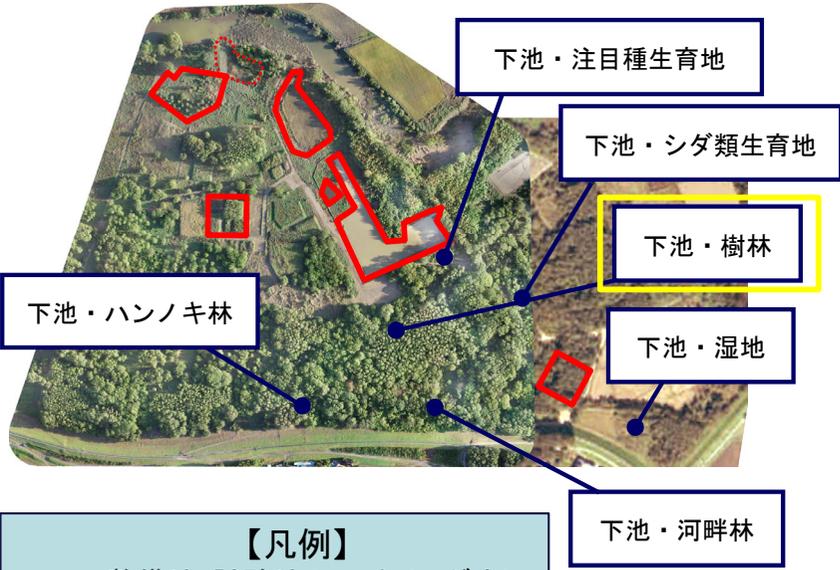
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 写真撮影

●エノキなどの樹林の状態は維持されています。



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)

【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- ... : 試験地(モニタリング終了)

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

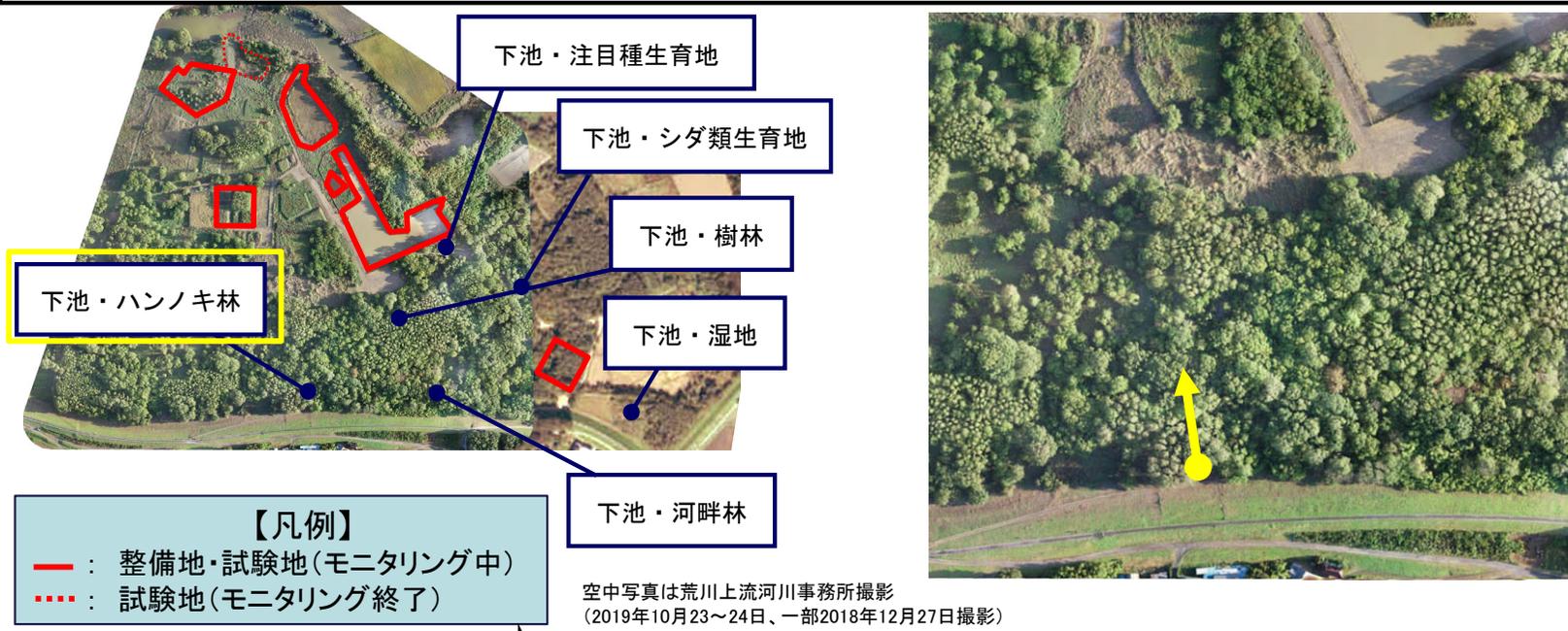
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 写真撮影

●ハンノキ林および林床のスゲ類等の湿生草本類の状態は維持されています。



2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

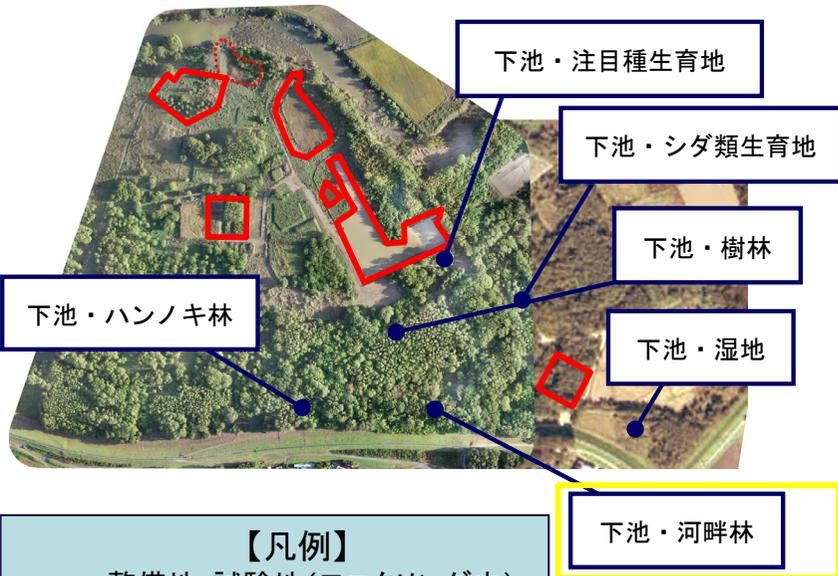
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 写真撮影

●ヤマザクラを中心にミズキやムクノキ等の河畔林の状態は維持されています。



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)

【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- : 試験地(モニタリング終了)

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

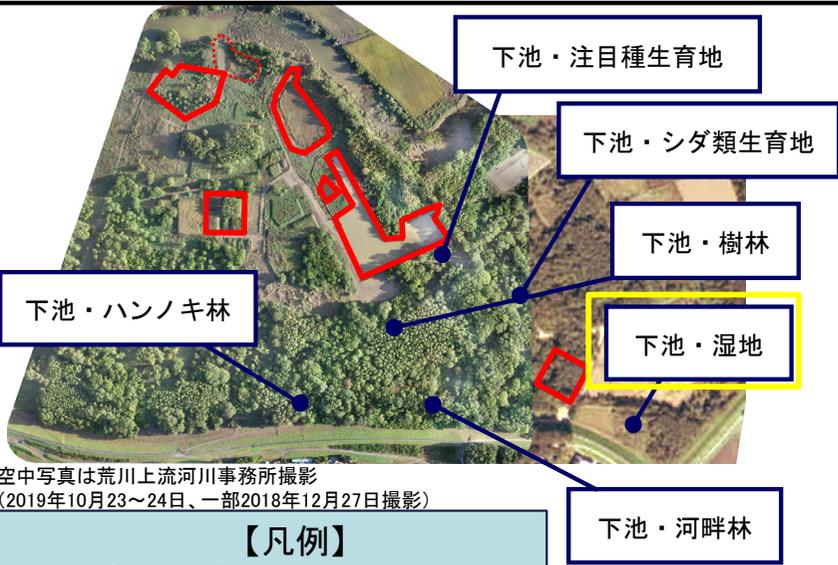
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 写真撮影

●かつてアゼオトギリが生育した休耕田は、遷移・乾燥化が進行しています。



空中写真は荒川上流河川事務所撮影 (2020年6月2~3日撮影)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影 (2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)

【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- : 試験地(モニタリング終了)

6年後

2014.4.24

2020.4.24

2020.8.5

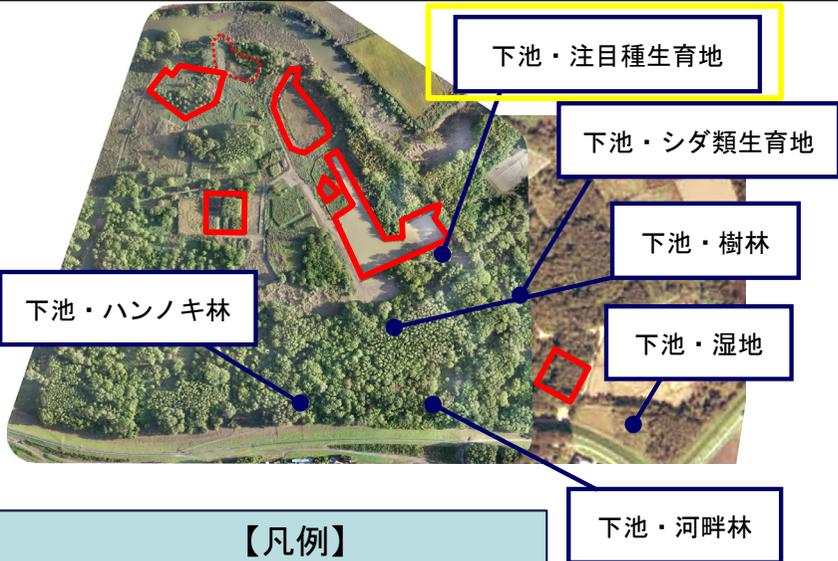
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 写真撮影

●フジカンゾウは生育しています。侵入していた周辺タケ類は一部伐採をしています。防根シートを埋設しているため、タケ類の侵入はみられていません。



【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- : 試験地(モニタリング終了)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

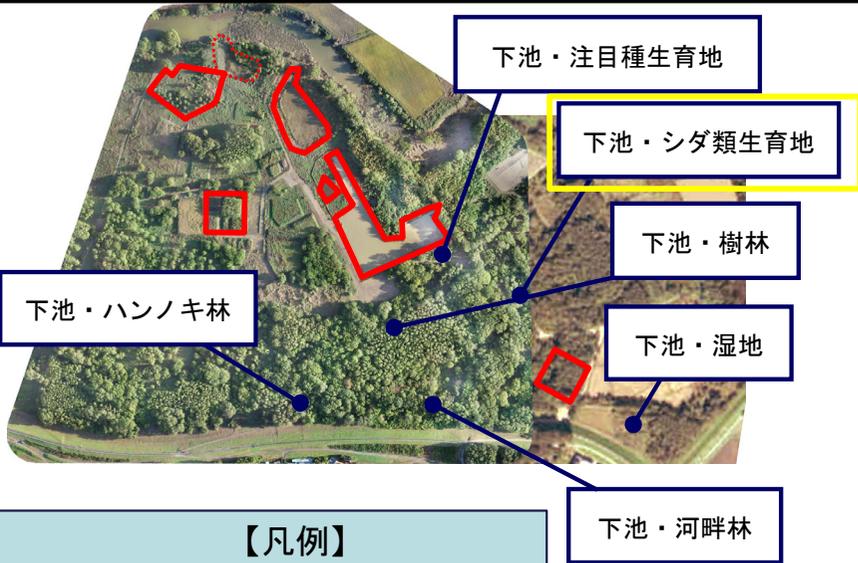
2020.10.13



3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・シダ類生育地 写真撮影

●シダ類(イヌワラビ等)の状態は維持されています。



【凡例】

- : 整備地・試験地(モニタリング中)
- : 試験地(モニタリング終了)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)

2014.4.24

6年後

2020.4.24

2020.8.5

2020.10.13



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

項目	対象目標種	場所	結果概要	記載ページ
植物相	イチョウウキゴケ、タコノアシ、 ナガボノワレモコウ、ノウルシ、 ヒシ、ホザキノフサモ、 エキサイゼリ、サクラソウ、 ミゾコウジュ、フジバカマ、ミクリ		非表示	49-63
昆虫類	ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、 クマコオロギ、エサキアメンボ、 ハネナシアメンボ、ヘイケボタル			64-67
	ミドリシジミ オナガミズアオ			68
両生類	ニホンアカガエル			69
	シュレーゲルアオガエル			70-72

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

項目	対象目標種	場所	結果概要	記載ページ		
哺乳類	ホンシュウジネズミ	[Red dashed box]	[Red dashed box]	73		
	ホンドヌキ・ホンドキツネ			74		
鳥類	カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ			[Red dashed box]	非表示	75-76
	オオタカ、ツミ、サシバ、チョウゲンボウ					77-79
	コミズク、タゲリ					—
	特定の場所(写真撮影)	[Red dashed box]	[Red dashed box]	80-89		

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

- 1) 植物相：イチョウウキゴケ、タコノアシ、ナガボノワレモコウ、ノウルシ、ヒシ、ホザキノフサモ、エキサイゼリ、サクラソウ、ミゾコウジュ、フジバカマ、ミクリ

非表示

2020.4,5,8,10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・旧流路整備地

●モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・旧流路整備地

夏季

2020.8の結果

秋季

2020.10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・旧流路保全地区

● 非表示

早春季

春季

2020.4の結果

2020.5の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・旧流路保全地区

夏季

2020.8の結果

秋季

2020.10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地A 2011整備

●モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。

2011整備地

早春季

2020.4の結果

春季

2020.5の結果

夏季

2020.8の結果

秋季

2020.10の結果

非表示

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地A 2013整備

●モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。

2013整備地

早春季

2020.4の結果

春季

2020.5の結果

非表示

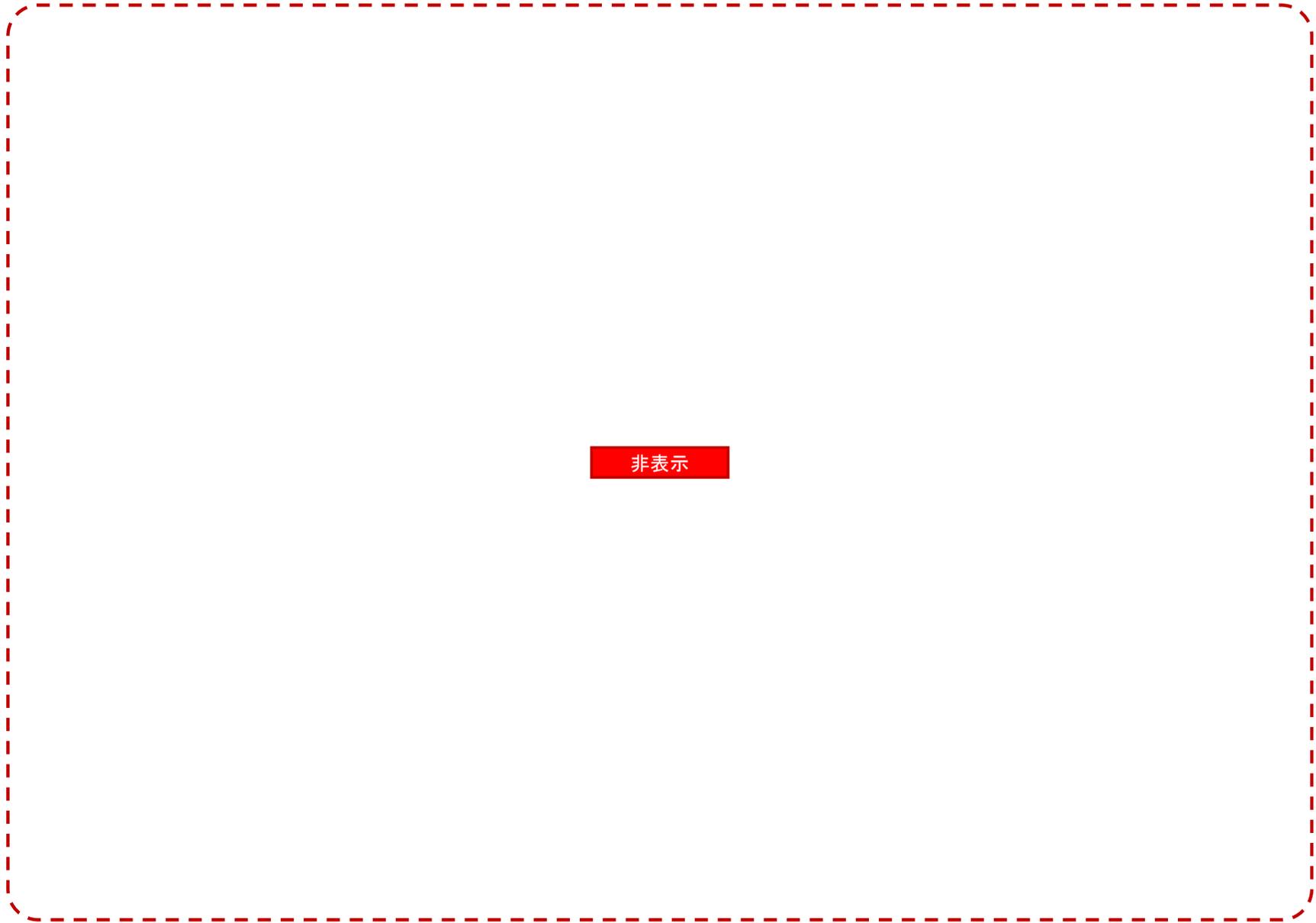
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地A 2013整備

2013整備地

夏季

2020.8の結果



秋季

2020.10の結果

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地D 2011整備

●モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。

早春季

2011整備地

夏季

2020.8の結果

非表示

秋季

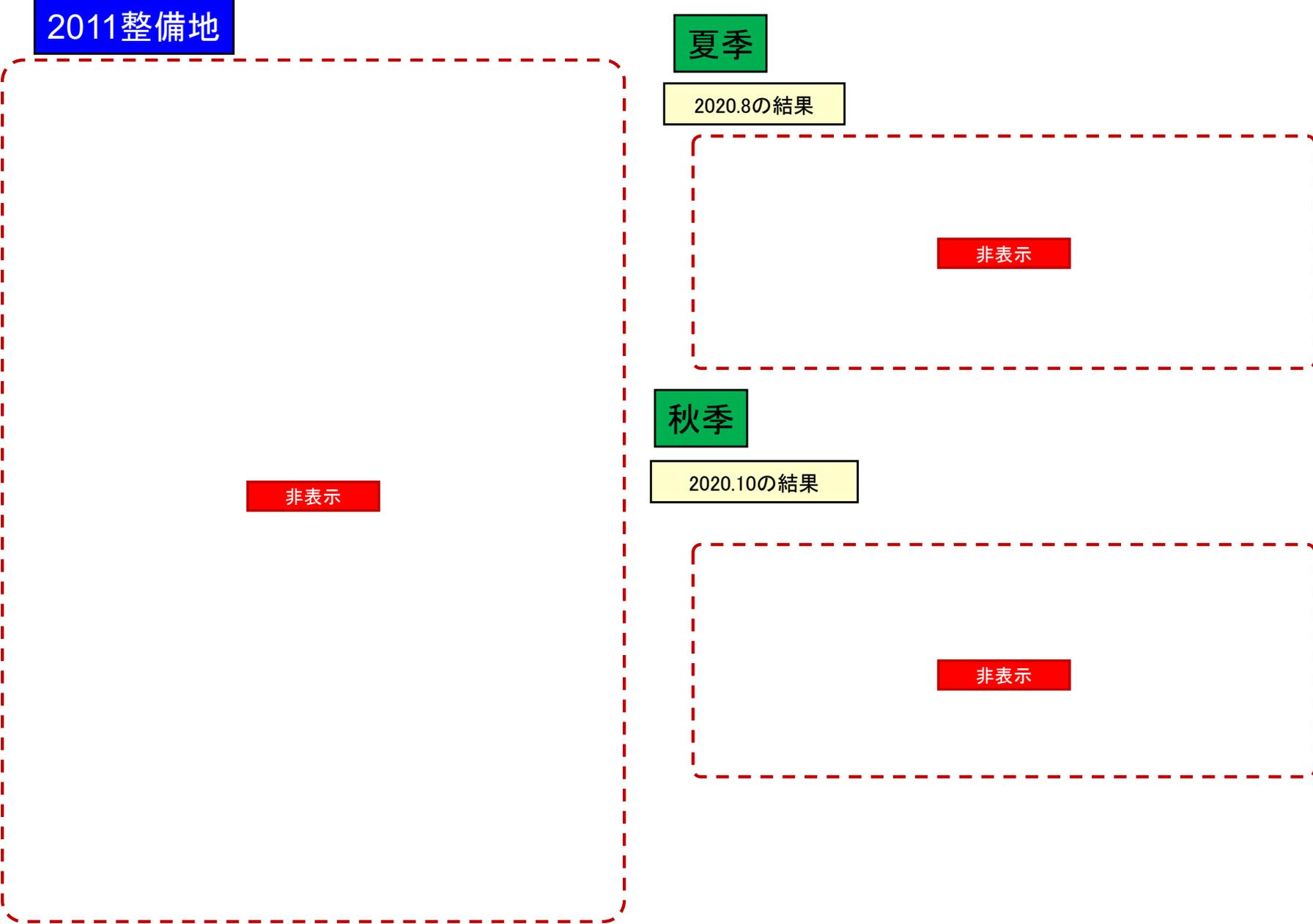
2020.10の結果

非表示

春季

2020.5の結果

非表示



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地D 2013-2015整備

●モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。

早春季

2013-2015整備地

春季

2020.4の結果

2020.5の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

1) 植物相：上池・モトクロス場跡地整備地D 2013-2015整備

2013-2015整備地

夏季

2020.8の結果

非表示

秋季

2020.10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：上池・その他の湿地等

非表示

早春～秋季

2020.4、10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：下池整備地 2016-2019整備

●下池整備地は、ミドリシジミの生息環境としてのハンノキ林の形成を目的として掘削とハンノキ移植を実施した場所です。

2016整備地

早春季

2020.4の結果

春季

2020.5の結果

夏季

2020.8の結果

秋季

2020.10の結果

非表示

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：下池整備地 2016-2019整備

2017-19整備地

早春季

2020.4の結果

春季

2020.5の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 植物相：下池整備地 2016-2019整備

2017-19整備地

夏季

2020.8の結果

秋季

2020.10の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) 昆虫類：ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ハイケボタル

非表示

2020.7、9の結果(6、7月は追加調査)

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) 昆虫類：ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ハイケボタル

2020.7の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) 昆虫類：ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ハイケボタル

2020.9の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) 昆虫類：ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ハイケボタル

2020.6の追加調査結果

2020.7の追加調査結果

非表示

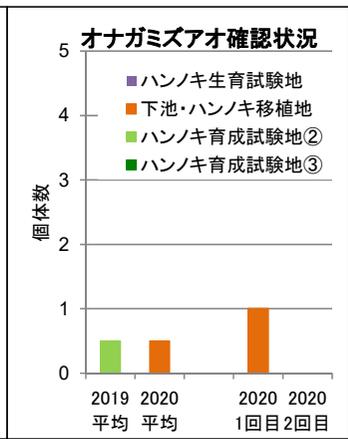
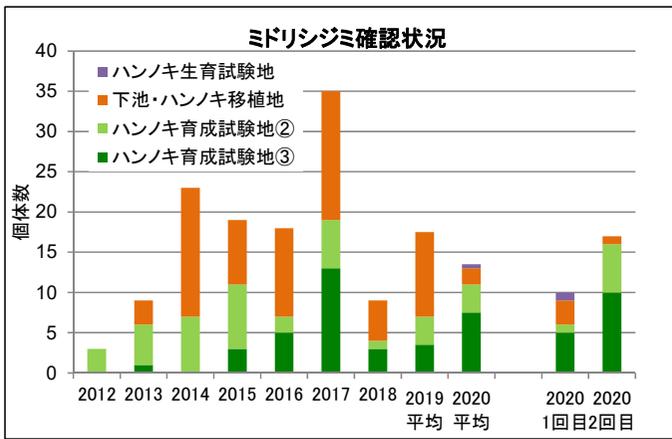
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) 昆虫類：ミドリシジミ・オナガミズアオ

- ミドリシジミは、2回の調査で、下池・ハンノキ移植地で4個体、ハンノキ育成試験地②で7個体、ハンノキ育成試験地③で15個体、ハンノキ生育試験地で1個体の合計27個体、平均13.5個体確認されました。また、今回初めて、ハンノキ生育条件試験地でミドリシジミが確認されました。
- オナガミズアオは、2回の調査で、下池・ハンノキ移植地で1個体が確認されました(夜間調査時に確認されました)。前回2019年は日中の確認で、夜間は今回初めて確認されました。
- 調査年によって確認数に差はありますが、継続して確認されており定着していると考えられます。

【目標種であるミドリシジミとオナガミズアオの確認状況】

種名	調査箇所	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (平均)	2020 (平均)	2020	2020
		調査回数	1回	2回	2回	1回目						
ミドリシジミ	下池・ハンノキ移植地	0	3	16	8	11	16	5	10.5	2.0	3	1
	ハンノキ育成試験地②	3	5	7	8	2	6	1	3.5	3.5	1	6
	ハンノキ育成試験地③	0	1	0	3	5	13	3	3.5	7.5	5	10
	ハンノキ生育試験地									0.5	1	0
オナガミズアオ	下池・ハンノキ移植地								0	0.5	1	0
	ハンノキ育成試験地②								0	0	0	0
	ハンノキ育成試験地③								0.5	0	0	0
	ハンノキ生育試験地									0	0	0



※調査地点はP9参照

※1回目6/8-9 2回目6/23-24



ミドリシジミ



オナガミズアオ

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 両生類：ニホンアカガエル【2019年度 早春】

非表示

2020.3の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 両生類：シュレーゲルアオガエル

非表示

2020.5、2020.6の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 両生類：シュレーゲルアオガエル

2020.5の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 両生類：シュレーゲルアオガエル

2020.6の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

4) 哺乳類：ホンシュウジネズミ

非表示

調査位置図

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

4) 哺乳類：ホンドタヌキ、ホンドキツネ

非表示

2020.7の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 鳥類：カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ

非表示

2020.6の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 鳥類：カワセミ、クイナ、ヒクイナ、バン、ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ

2020.6の結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 鳥類：オオタカ、ツミ、サシバ、チョウゲンボウ

非表示

2020.4~7結果

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 鳥類：オオタカ、ツミ、サシバ、チョウゲンボウ

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 鳥類：オオタカ、ツミ、サシバ、チョウゲンボウ

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

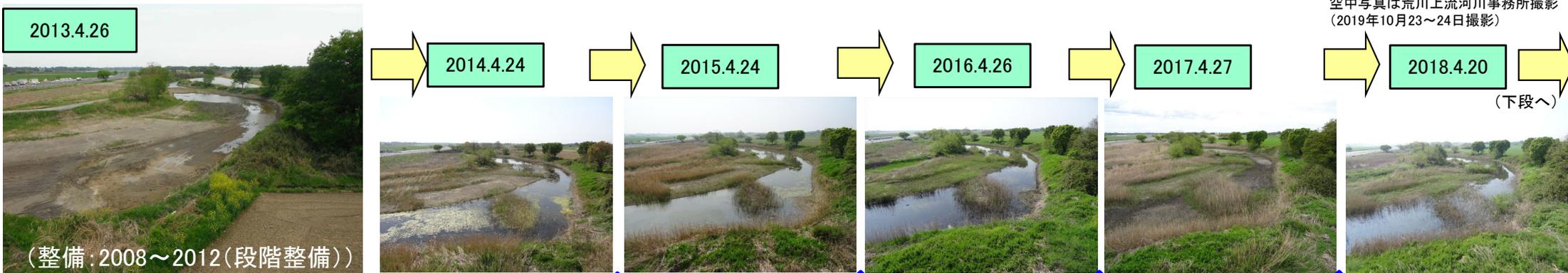
6) 写真撮影：上池・旧流路整備地

- 旧流路整備地は、開放水面の形成を目的として掘削された場所です。
- 昨年の台風第19号、今年の台風第14号による荒川本川からの河川水の流入により水面が維持されています。
- ヨシ等の湿生植物が生育しており、湿地は維持されています。

太郎右衛門橋から撮影



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23～24日撮影)



※上池への流入実績のある前線・台風

- 2013.9月台風第18号
2013.10月台風第26号
- 2014.6月前線
2014.10月台風第18号
- 2015.7月台風第11号
2015.9月台風第17号・18号
- 2016.8月台風第9号・10号
2016.9月台風第16号
- 2017.10月台風第21号

- 2019.4.24
- 2020.4.24
- 2020.8.5
- 2020.10.13



- 2018.10月台風第24号
- 2019.9月台風第15号
2019.10月台風第19号
2019.10月26日熱帯低気圧と台風第21号

- 2020.10月台風第14号

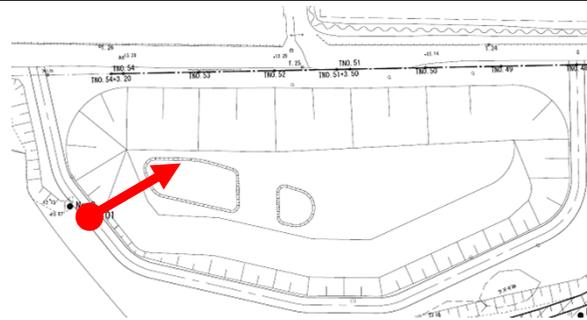
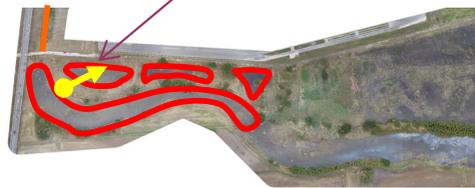
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

6) 写真撮影：上池・モトクロス場跡地整備地A

- モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。
- 底部にはヨシ等の湿生植物が生育しており、湿地は維持されています。（斜面部はオギが優占）
- 昨年の台風第19号の冠水による水面が維持されています。

2011整備地

上池・モトクロス場跡地整備地A
(2011整備)



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23～24日撮影)

2014.4.24



(整備直後)

2013.4.26



2014.4.24



2015.4.24



2016.4.26



2017.4.27



2018.4.20



(下段へ)

2019.4.24



オギ

ヨシ

2020.4.24



オギ

水面

ヨシ

2020.8.5



オギ

ヨシ

2020.8.5



オギ

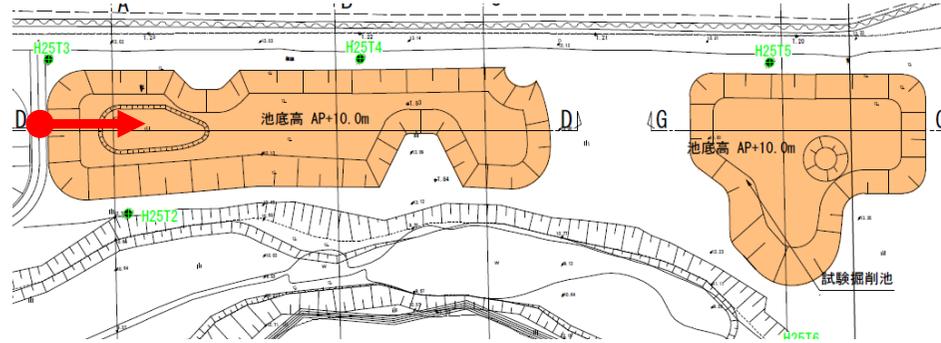
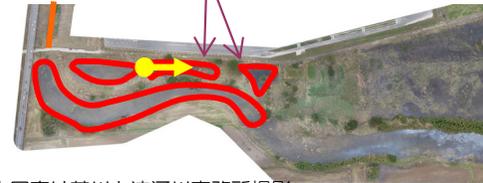
ヨシ

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

6) 写真撮影：上池・モトクロス場跡地整備地A

2013整備地

上池・モトクロス場跡地整備地A
(2013整備)



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日撮影)

2014.4.24



2015.4.24



2016.4.26



2017.4.27



2018.4.20



(下段へ)



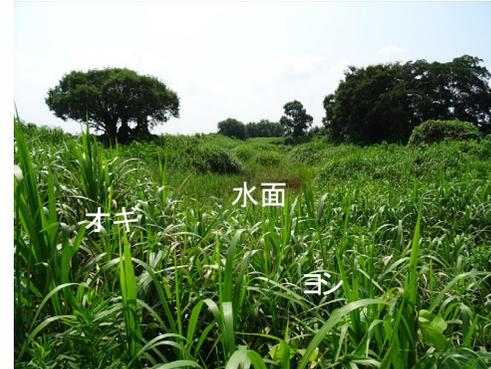
2019.4.24



2020.4.24



2020.8.5



2020.8.5



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

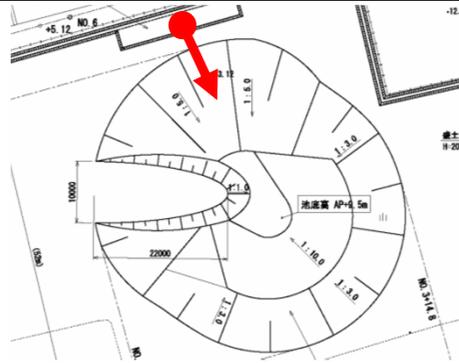
6) 写真撮影：上池・モトクロス場跡地整備地D

- モトクロス場跡地整備地は、湿地の形成を目的として掘削された場所です。
- 底部にはヨシ等の湿生植物が生育しており、湿地は維持されています。（斜面部はオギが優占）

2011整備地

上池・モトクロス場跡地整備地D
(2011整備)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日撮影)



2012.4.24



2013.4.26



2014.4.24



2015.4.24



2016.4.26



2017.4.27



2018.4.20



(下段へ)

2019.4.24



2020.4.24



2020.8.5



2020.8.5



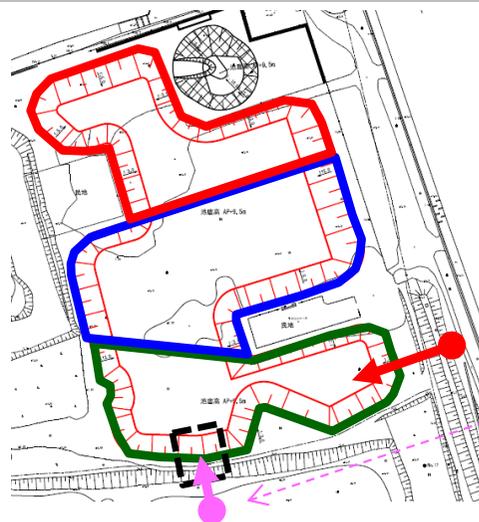
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

6) 写真撮影：上池・モトクロス場跡地整備地D

2013-2015整備地



上池・モトクロス場跡地整備地D
(2013-2015整備)



- ▭ 2015整備
- ▭ 2014整備
- ▭ 2013整備

2016.2.9



モトクロス場跡地整備地D側
旧流路側
2015秋の台風による出水で旧流路河岸の一部が崩壊し当整備地と接続した。

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日撮影)

2014.4.24



(整備直後)

2015.4.24



2016.4.26



2017.4.27



2018.4.20



(下段へ)

2019.4.24



2020.4.24



2020.8.5



2020.8.5



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

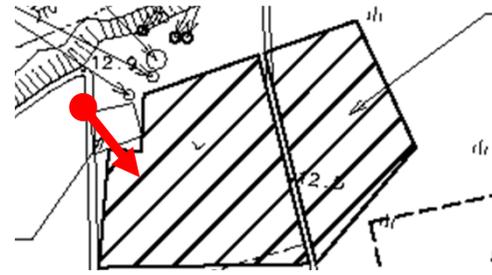
6) 写真撮影：下池・ハンノキ移植地

- ハンノキ移植地は、ミドリシジミの生息環境としてのハンノキ林の形成を目的として掘削とハンノキ移植を実施した場所です。
- 2012年3月に移植したハンノキは順調に生育しています。6月にはミドリシジミが確認されています。

2011整備地

下池・ハンノキ移植地
(2011整備)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)



2012.4.24



(整備直後)

2013.4.26



2014.4.24



2015.4.24



2016.4.26



2017.4.27



2018.4.20



(下段へ)

2019.4.24

移植したハンノキ



2020.4.24

移植したハンノキ



2020.8.5

移植したハンノキ



2020.8.5

移植したハンノキ



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

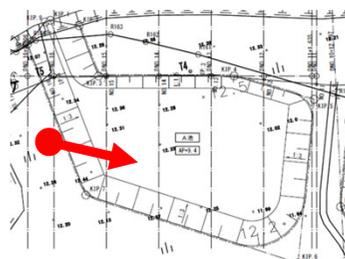
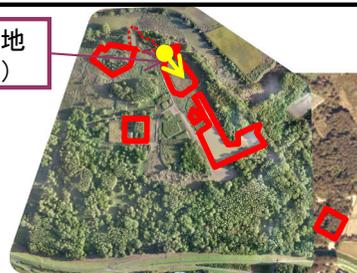
6) 写真撮影：下池・整備地

- 整備地は、ミドリシジミの生息環境としてのハンノキ林の形成を目的として掘削とハンノキ移植を実施した場所です。
- 底部にはヒメガマ等の湿生草本が生育し、湿地が維持されていることが確認されています。
- 2017年2月・2019年2月に移植したハンノキは順調に生育しています。

2016整備地

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23～24日、
一部2018年12月27日撮影)

下池・整備地
(2016整備)



2017.4.27



(整備直後)

2018.4.20



2019.4.24



(下段へ)

2020.4.24



2020.8.5



2020.10.18



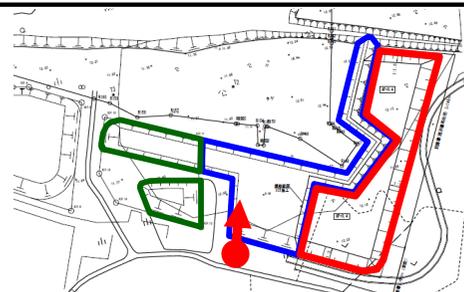
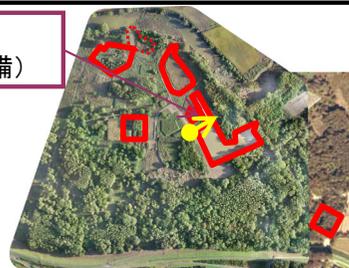
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

6) 写真撮影：下池・整備地 2016-2018整備

- 整備地は、ミドリシジミの生息環境としてのハンノキ林の形成を目的として掘削とハンノキ移植を実施した場所です。
- 底部には水面が形成され、ハンノキの生育には過湿状態が続いていることが確認されています。
- 2019年2月に底部に移植したハンノキは冠水のため生育状態が悪いことが確認されています。

2017整備地

下池・整備地
(2016-2018整備)



- 2018整備
- 2017整備
- 2016整備

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、
一部2018年12月27日撮影)

2018.4.27



(整備直後)

2019.4.24



水面

(下段へ)

2020.4.24



水面

2020.8.5



水面

2020.10.13

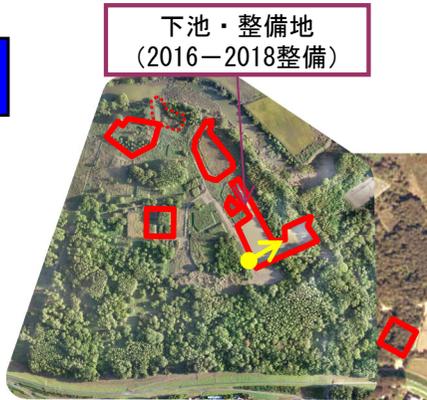


水面

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

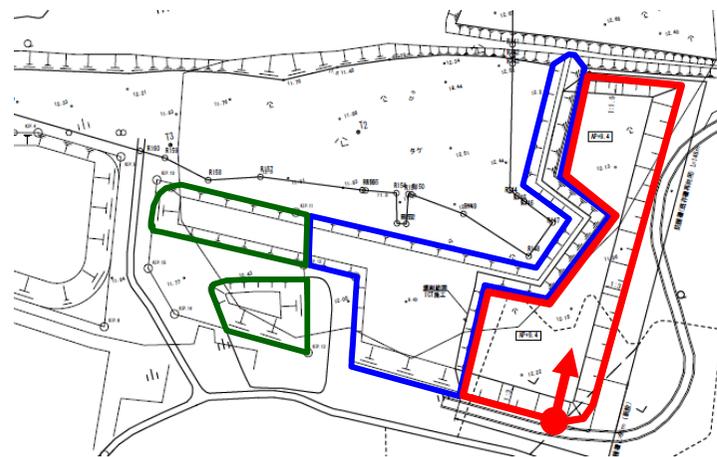
6) 写真撮影：下池・整備地 2016-2018整備

2018整備地



下池・整備地
(2016-2018整備)

空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、一部2018年12月27日撮影)



2018整備
2017整備
2016整備

2019.1.29



2019.4.24



(下段へ)

2020.4.24



2020.8.5



2020.10.18



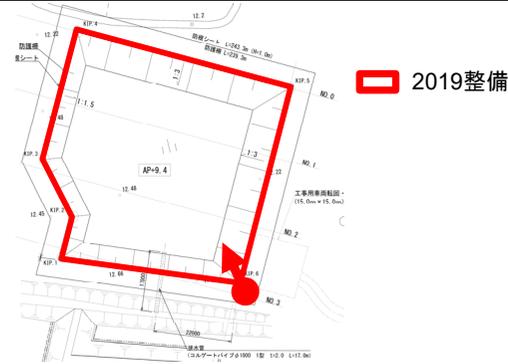
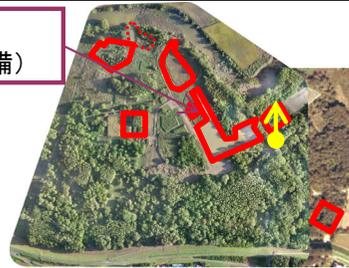
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

6) 写真撮影：下池・整備地 2019整備

- 整備地は、ミドリシジミの生息環境としてのハンノキ林の形成を目的として掘削とハンノキ移植を実施した場所です。
- 底部には水面が形成され、ハンノキの生育には過湿状態となっていることが確認されています。
- 2020年2月に法面に移植したハンノキは順調に生育されています。

2019整備地

下池・整備地
(2016-2018整備)



空中写真は荒川上流河川事務所撮影
(2019年10月23~24日、
一部2018年12月27日撮影)

2019.12.19



(整備直後)



(下段へ)

2020.4.24



移植したハンノキ

2020.8.5



移植したハンノキ

2020.10.18



移植したハンノキ

5.その他の報告

1) 太郎右衛門地区での委員による情報提供

非表示

非表示

5.その他の報告

2) 太郎右衛門地区および近傍での委員等による情報提供

- 堂本委員より、6月2日中池つばさ北小植栽地前でニホンマムシ1個体の確認情報のご提供がありました。
- 荒木委員より、11月13日中池散策路でジムグリ1個体の確認情報のご提供がありました。
- 河川巡視時に、6月9日川島排水機場周辺の堤外側、7月8日入間川釘無橋下流の背割り堤防でニホンジカが確認されました(下記写真)。



堂本委員による中池つばさ北小植栽地前でのニホンマムシ確認状況



荒木委員による中池散策路でのジムグリ確認状況



河川巡視でのニホンジカ確認状況

